

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書で使用している表記について説明しています。

第1章 リモートマネジメントコントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要、ご使用になるうえでの留意事項について説明しています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に必ずお読みください。

第2章 準備

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

第3章 起動と終了

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了方法について説明しています。

第4章 情報の参照と設定

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

付録



この章では、リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用する際に必要な設定について説明しています。

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
      ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では〔CD/DVD ドライブ〕で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。

〔CD/DVD ドライブ〕 :%setup.exe

■ Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD/DVD ドライブおよびフロッピーディスクドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/」、「mnt または media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、以下の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(IPF) の場合
/media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)/RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合
/media/cdrom、/media/floppy

重要

- ▶ RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合、マウント処理は以下の手順で行ってください。

```
# mkdir /media/cdrom
# mount /dev/cdrom /media/cdrom
または
# mkdir /media/floppy
# mount /dev/floppy /media/floppy
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™	Windows Server 2008 または Windows Server 2008 (64-bit)	Windows
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	Red Hat Linux RHEL5(x86)	Linux
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	RHEL5(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)	RHEL-AS4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)	RHEL-ES4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)	RHEL-AS4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)	RHEL-ES4(EM64T)	
リモートサービスボード (PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105)	リモートサービスボード	

■ Server Core インストールオプションについて

本書では Windows Server 2008 オペレーティングシステムを Server Core インストールオプションにてインストールした環境を Server Core と表記しています。

参考情報

■ iRMC S2 説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「iRMC S2 説明書」に記載されています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に、必ずお読みください。「iRMC S2 説明書」は、"iRMC_Hints.txt" というファイル名で、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「iRMC S2 説明書」(iRMC_Hints.txt) 内に記載されています。リモートマネジメントコントローラをお使いになる前に、ご確認ください。

本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

■ ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) に記載されています。

■ 商標

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2008

目次

第 1 章	リモートマネジメントコントローラの概要	
1.1	リモートマネジメントコントローラとは	10
1.1.1	機能	10
1.2	留意事項	11
第 2 章	準備	
2.1	準備	14
2.1.1	IP アドレスの設定	14
2.1.2	ユーザ名とパスワードの設定	14
2.2	リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル	16
第 3 章	起動と終了	
3.1	Web インターフェースの起動	18
3.2	Web インターフェースの操作	20
3.2.1	Web インターフェースのメニュー一覧	21
3.3	Web インターフェースの終了	23
第 4 章	情報の参照と設定	
4.1	システム情報	26
4.1.1	システムの概要	26
4.1.2	システム構成情報	27
4.2	iRMC S2	29
4.2.1	iRMC S2 情報	29
4.2.2	リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定	30
4.2.3	iRMC S2 ファームウェア設定の保存	31
4.2.4	認証データ アップロード	32
4.2.5	自己署名 RSA 証明書の作成	33
4.3	電源制御	35
4.3.1	Power On/Off	35
4.3.2	電源制御オプション	37
4.4	電力制御	38
4.4.1	消費電力制御	38
4.5	センサ	40
4.5.1	ファン	40
4.5.2	温度	43
4.5.3	電圧	45
4.5.4	センサの状態	46
4.6	システムイベントログ	47

4.6.1 システムイベントログ内容	47
4.6.2 システムイベントログ設定	49
4.7 サーバ管理情報	50
4.8 ネットワーク	52
4.8.1 ネットワーク インタフェース	52
4.8.2 ポート番号とネットワークサービス	53
4.8.3 DHCP 構成	55
4.8.4 DNS 構成	56
4.9 通知情報設定	57
4.9.1 SNMP トラップ送信設定	57
4.9.2 E-mail 設定	58
4.10 ユーザ管理	60
4.10.1 ユーザ管理	60
4.10.2 ディレクトリサービス構成	65
4.11 コンソールリダイレクション	67
4.11.1 BIOS テキストコンソール	67
4.11.2 ビデオリダイレクション (AVR)	69
4.11.3 ビデオリダイレクションの画面構成	73
4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定	74
4.11.5 リモートストレージ接続	76
4.11.6 グラフィカルキーボード	80
4.11.7 マウス、キーボードの設定	80
4.12 リモートストレージ	82
4.13 iRMC S2 SSH アクセス	84
4.13.1 接続方法と終了方法	85
4.13.2 メインメニュー	86
4.14 iRMC S2 Telnet アクセス	87
4.15 セッションログアウト	88

付 録

A LDAPを使用する場合の設定	90
-------------------------------	-----------

第 1 章

リモートマネジメント コントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要について説明しています。

1.1 リモートマネジメントコントローラとは	10
1.2 留意事項	11

1.1 リモートマネジメントコントローラとは

リモートマネジメントコントローラとは、ベースボード（On Board）に搭載される Baseboard Management Controller（BMC）にリモートサービスボード（RSB）の機能を付加し、リモート環境からサーバの状態確認や設定、電源制御などを行える機能です。

ここでは、リモートマネジメントコントローラにリモートからアクセスし、操作するための Web インターフェースについて説明します。

1.1.1 機能

● リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの機能

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースには、以下の機能があります。

- ・ システム情報の表示→「4.1 システム情報」(P.26)
- ・ サーバの操作（再起動、電源投入／切断）→「4.3 電源制御」(P.35)
- ・ 各センサの状態表示（ファン、温度、電圧、電源）→「4.5 センサ」(P.40)
- ・ ログの表示→「4.6 システムイベントログ」(P.47)
- ・ サーバ管理情報の表示と設定→「4.7 サーバ管理情報」(P.50)
- ・ ネットワークの設定→「4.8 ネットワーク」(P.52)
- ・ アラート送信→「4.9 通知情報設定」(P.57)
- ・ ユーザ情報の表示と設定→「4.10 ユーザ管理」(P.60)
- ・ ビデオリダイレクションとリモートストレージ接続→「4.11 コンソールリダイレクション」(P.67)

重要

- ▶ リモートマネジメントコントローラは、ベースボード上では BMC（Baseboard Management Controller）の一部となるため、統合されて「iRMC S2」と表示されます。
- ▶ ビデオリダイレクション（AVR）およびリモートストレージ接続の機能を使用するには、専用のライセンスキー（オプション品）が別途必要です。
- ▶ 画面データおよび画面の説明は、機種、構成、版数により表示されない場合があります。

1.2 留意事項

リモートマネジメントコントローラをお使いになるうえでの留意事項について説明します。

■ セキュリティについて

リモートマネジメントコントローラの扱う情報の中には、管理者名などの個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意くださいと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

■ その他の留意事項

- Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_10 以降の JRE が必要です。
- リモートマネジメントコントローラアクセス用に個別の IP アドレスが必要です (DHCP でも可能です)。
- 機種により、リモートマネジメントコントローラに接続する LAN ポートが決まっています。サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照し、正しい LAN ポートに接続してください。
- シリアル接続による制御は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。
- シリアル/モデム通知設定機能については、未サポートです。
- リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースでは、以下のブラウザのみをサポートします。
 - Windows : Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
 - Linux : Mozilla FireFox

重要

- ▶ Mozilla FireFox は、V1.5.0.7 以降のバージョンをお使いください。
- ▶ Microsoft Internet Explorer 7 で iRMC S2 へアクセスすると何度もログインが要求される場合があります。その場合は、以下の URL にあるマイクロソフトのパッチを適用してください。
<http://support.microsoft.com/kb/904942/ja>

第 2 章 準備

2

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

2.1 準備	14
2.2 リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル ..	16

2.1 準備

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースおよびリモートマネージャへのアクセス用に、IP アドレス/ユーザ名/パスワードを設定します。

2.1.1 IP アドレスの設定

初期状態では、DHCP が「無効」に設定されているため、IP アドレスの設定が必要です。IP アドレスを個別に設定する場合は、Server Management Tools (IPMIview) や Web インターフェースを利用するか、BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

POINT

- ▶ 現在設定されている IP アドレスが不明な場合は、Server Management Tools (IPMIview) で確認できません。Server Management Tools (IPMIview) が添付されない機種での初期設定には、BIOS セットアップユーティリティを使用してください。

2.1.2 ユーザ名とパスワードの設定

リモートマネジメントコントローラへアクセスするためのユーザ名とパスワードは、初期状態で以下のように設定されています。

表：初期登録ユーザ名とパスワード

ユーザ名	パスワード	アクセスレベル/ 動作 Shell 種別
admin	admin	OEM / RemoteManager

ユーザ名とパスワードを個別に設定する場合は、Web インターフェース (→「4.10.1 ユーザ管理」(P.60)) または Server Management Tools (IPMIview) を利用して設定してください。

POINT

- ▶ 現在設定されているユーザ名/パスワードが不明な場合は、Server Management Tools (IPMIview) で確認できます。Server Management Tools (IPMIview) が添付されない機種では、Web インターフェースを使用してください。

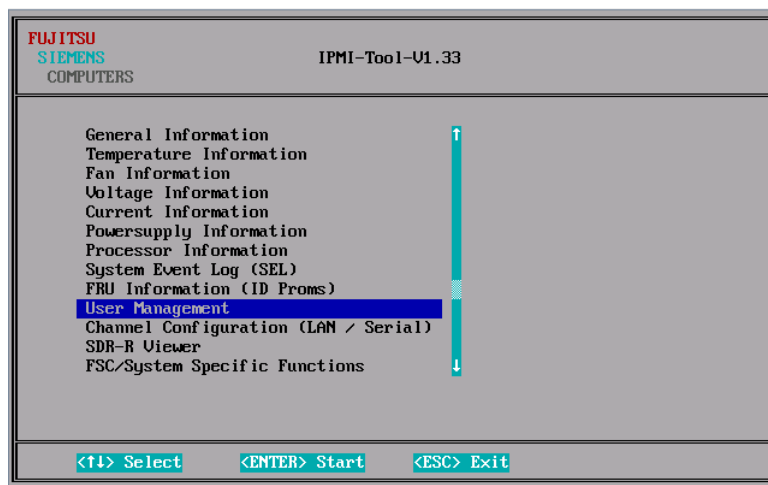
■ Server Management Tools (IPMIview) を使用した設定方法

Server Management Tools (IPMIview) を使用して、IP アドレス/ユーザ名/パスワードを設定する方法について説明します。

- 1 Server Management Tools ディスクをセットし、サーバを起動します。
- 2 以下のコマンドを実行し、IPMIVIEW を起動します。

```
>ipmiview.exe
```

3 IPMIVIEW のメニューより目的のメニューを選択します。



iRMC S2 の IP アドレス設定

1. メニューより「Channel Configuration (LAN / Serial)」を選択します。
2. メニューより「2 802.3_LAN」を選択します。
3. 【F1】キー (General Settings) を押します。
4. 各項目を設定します。
IPAddressSource には、「3」を設定してください。
5. 【F1】キー (SetValues) を押して、設定を格納し終了します。

iRMC S2 のユーザ名／パスワード設定

1. メニューより「User Management」を選択します。
2. ユーザー一覧より変更したいユーザ名 (追加の場合は設定されていない番号) を選択します。
3. ユーザ名、パスワード、各権限を設定します。
4. 【F1】キー (SetValues) を押して、設定を格納します。
5. 【F2】キー、【F3】キーを押して、各権限を設定します。
6. 【F1】キー (SetValues) を押して、設定を格納し終了します。

重要

- ▶ IPMIVIEW のバージョンが iRMC S2 と合っていない場合、【F2】キー、【F3】キーが動作しない場合があります。Web インターフェース (デフォルトの admin でログイン) で作成、設定してください。

4 【Esc】キーを押して、IPMIVIEW を終了します。

2.2 リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル

リモートマネジメントコントローラが使用する通信プロトコル、ポートおよび方向は次のとおりです。

表：リモートマネジメントコントローラが使用する通信プロトコル、ポートと方向

リモート側 [注 1]	通信方向	リモートマネジメントコントローラ (iRMC S2) 側 (ポート番号 / プロトコル)
RMCP	→	(623/UDP)
	←	(623/UDP) ACK など
HTTP ポート	→	(80/TCP)
	←	(80/TCP) ACK など
HTTPS ポート	→	(443/TCP)
	←	(443/TCP) ACK など
Telnet	→	(3172/TCP)
	←	(3172/TCP) ACK など
SSH	→	(22/TCP)
	←	(22/TCP) ACK など
Trap	→	(162/UCP)
E-mail	→	(25/TCP)
	←	(25/TCP) ACK など
リモートストレージ	→	(5901/TCP)
	←	(5901/TCP) ACK など
VNC ポート		
Standard ポート	→	(80/TCP)
	←	(80/TCP) ACK など
Secure ポート	→	(443/TCP)
	←	(443/TCP) ACK など

[注 1]：リモート側はすべて「outPort」を使用します。

第 3 章 起動と終了

3

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了の方法について説明しています。

3.1 Web インターフェースの起動	18
3.2 Web インターフェースの操作	20
3.3 Web インターフェースの終了	23

3.1 Web インターフェースの起動

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動方法について説明します。

POINT

- ▶ リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースでは、Java または JavaScript を使用しません。Web ブラウザ側で、Java または JavaScript を使用できるように設定してください。
- ▶ 自サーバのリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを自サーバの OS 上からアクセスする際、iRMC S2 の LAN ポートを OS の LAN ポートと共用している場合には、OS の該当 LAN ポートを無効に設定してください。
- ▶ iRMC S2 の Web インターフェースにおけるセッション可能数は6つまでです。

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動には、Web ブラウザを使用します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレス欄に、以下のように入力します。

http を利用する場合

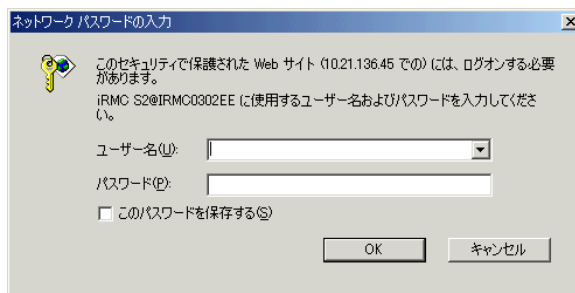
http:// <リモートマネジメントコントローラに設定した IP > : <ポート番号 (デフォルトは 80) >

https を利用する場合

https:// <リモートマネジメントコントローラに設定した IP > : <ポート番号 (デフォルトは 443) >

3 【Enter】キーを押します。

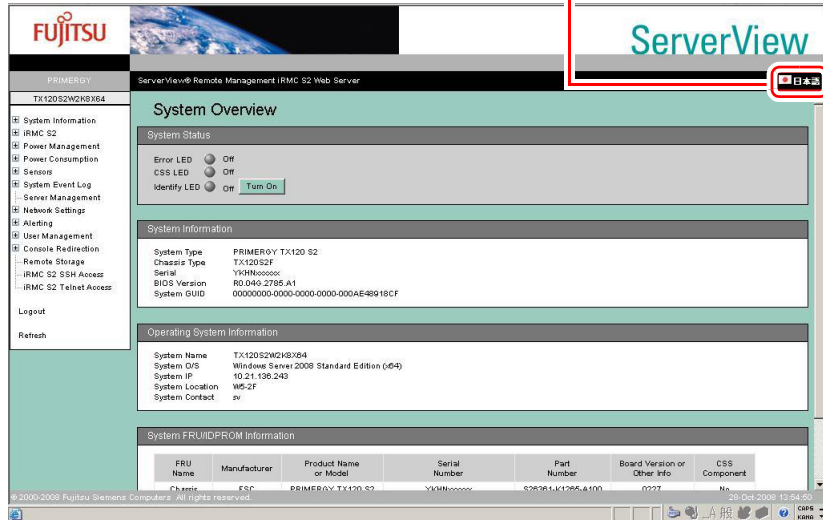
ネットワークパスワードの入力画面が表示されます。



- 4 リモートマネジメントコントローラに設定したユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

Web インターフェースのメイン画面が表示されます。

日本語／英語切り替えボタン



- 5 **日本語** (日本語／英語切り替えボタン) をクリックすると、日本語表示に切り替わります。

Web インターフェース接続の自動切断時間 (セッションタイムアウト時間)、および iRMC S2 の再起動によって自動ログアウトした場合は、英語表示になります。



POINT

- ▶ ServerView Operations Manager の「リモートマネージャ」画面からリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを起動することもできます。

3.2 Web インターフェースの操作

各設定画面の表示方法および、設定の操作について説明します。

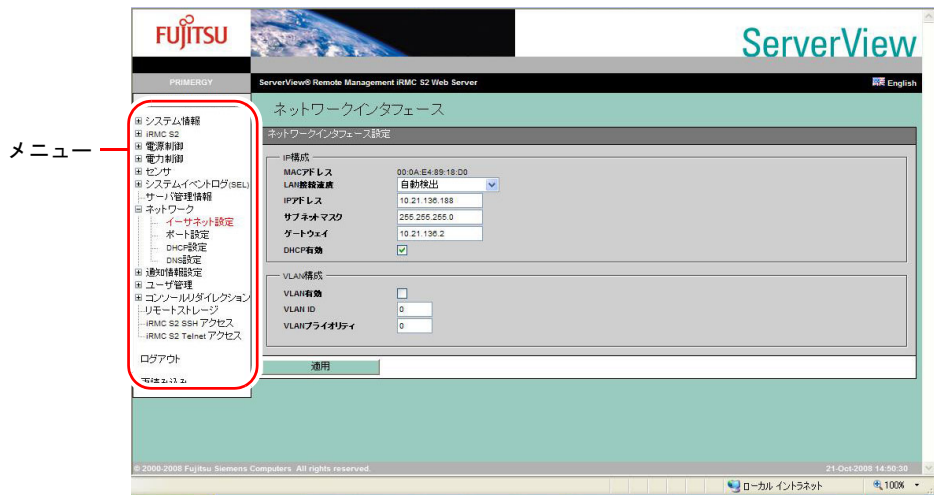
1 Web インターフェースのメイン画面を表示します。

→ 「3.1 Web インターフェースの起動」 (P.18)

2 画面左部のツリーメニューから、メニューを選択します。

[+] が付いているメニューは、下位メニューがあります。[+] 部分をクリックすると下位メニューが表示されます。

→ 「3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧」 (P.21)



3 情報を参照、または設定します。

設定値を変更した場合は、各項目で [適用] をクリックして反映します。

その他のボタンについては、各画面での説明を参照してください。

各画面での詳細な説明については、「第4章 情報の参照と設定」(→ P.25) を参照してください。

POINT

- ▶ Web インターフェース画面の再読み込みを行いたい場合は、メニューから「再読み込み」を選択します。

重要

- ▶ 各メニュー選択で表示される画面の URL は変更しないでください。変更した場合は、サポートの対象外となります。

3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧

Web インターフェースのメニューについて説明します。

表：Web インターフェースのメニュー

メニュー	説明
システム情報	リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムの情報を表示します。
システムの概要	システムの概要情報が表示されます。 →「4.1.1 システムの概要」(P.26)
システムの構成情報	システムの内部構成情報が表示されます。 →「4.1.2 システム構成情報」(P.27)
iRMC S2	リモートマネジメントコントローラに関する表示、設定を行います。
iRMC S2 情報	リモートマネジメントコントローラに関する情報を表示します。 →「4.2.1 iRMC S2 情報」(P.29)
設定の保存	リモートマネジメントコントローラの情報をセーブします。 →「4.2.3 iRMC S2 ファームウェア設定の保存」(P.31)
認証データ設定	リモートマネジメントコントローラの認証データを設定します。 →「4.2.4 認証データアップロード」(P.32)
証明書の作成	リモートマネジメントコントローラで RSA 認証を取得します。 →「4.2.5 自己署名 RSA 証明書の作成」(P.33)
電源制御	電源制御に関する設定を行います。
Power On/Off	サーバの電源状態を表示します。また、サーバの電源の ON/OFF や再起動を行います。 →「4.3.1 Power On/Off」(P.35)
電源制御オプション	AC 復帰時の動作設定やスケジュール運転の設定を行います。 →「4.3.2 電源制御オプション」(P.37)
電力制御	消費電力に対する動作設定を行います。
電力制御オプション	サーバの消費電力に対する動作を指定します。 →「4.4.1 消費電力制御」(P.38)
センサ	サーバ内の各センサの状態を表示します。
ファン	ファンの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「4.5.1 ファン」(P.40)
温度	温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「4.5.2 温度」(P.43)
電圧	サーバ内の電圧と電流の状態を表示します。 →「4.5.3 電圧」(P.45)
コンポーネント	各センサの状態を表示します。 →「4.5.4 センサの状態」(P.46)
システムイベントログ (SEL)	ベースボード上に格納されているシステムイベントログを表示します。
SEL の表示	イベントログを表示/クリアを行います。 →「4.6.1 システムイベントログ内容」(P.47)
SEL の設定	イベントログに関する設定を行います。 →「4.6.2 システムイベントログ設定」(P.49)
サーバ管理情報	サーバ管理情報の表示とサーバの起動や再起動の設定を行います。 →「4.7 サーバ管理情報」(P.50)

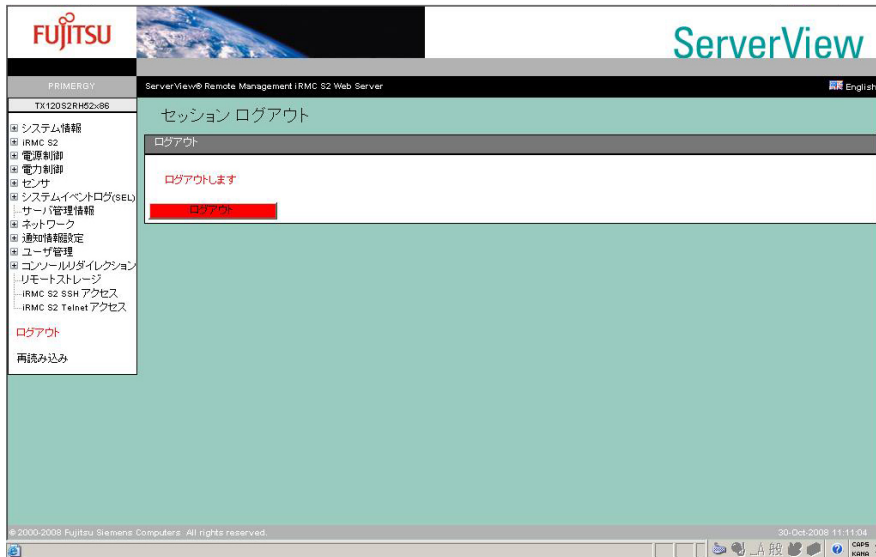
表：Web インターフェースのメニュー

メニュー	説明
ネットワーク	リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定を行います。
イーサネット設定	リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。 →「4.8.1 ネットワーク インタフェース」(P.52)
ポート設定	ポート番号を設定します。 →「4.8.2 ポート番号とネットワークサービス」(P.53)
DHCP 設定	DHCP の設定を行います。 →「4.8.3 DHCP 構成」(P.55)
DNS 設定	DNS の設定を行います。 →「4.8.4 DNS 構成」(P.56)
通知情報設定	SNMP トラップや E-mail の送信設定を行います。
SNMP トラップ設定	SNMP トラップの送信設定を行います。 →「4.9.1 SNMP トラップ送信設定」(P.57)
シリアル/モデム設定	シリアルポート/モデムの設定を行います。未サポートです。
E-mail 設定	送信する E-mail の設定を行います。 →「4.9.2 E-mail 設定」(P.58)
ユーザ管理	リモートマネジメントコントローラで使用するユーザの情報を設定します。
iRMC S2 ユーザ管理	リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ情報を設定します。 →「4.10.1 ユーザ管理」(P.60)
LDAP 構成設定	ディレクトリサービスを利用する場合の設定を行います。 →「4.10.2 ディレクトリサービス構成」(P.65)
コンソールリダイレクション	コンソールリダイレクションに関する設定、起動を行います。
BIOS テキスト	テキストコンソールリダイレクションを行う場合の設定を行います。 →「4.11.1 BIOS テキストコンソール」(P.67)
ビデオ (AVR)	ビデオリダイレクションを起動します。リモートでコンソールのリダイレクションを行う場合の設定を行います。また、リモートストレージの設定を行います。 →「4.11.2 ビデオリダイレクション (AVR)」(P.69)
リモートストレージ	リモートストレージ接続状態表示、および外部起動ディスクの設定を行います。 →「4.12 リモートストレージ」(P.82)
iRMC S2 SSH アクセス	リモートマネジメントコントローラへの SSH アクセス画面を起動します。 →「4.13 iRMC S2 SSH アクセス」(P.84)
iRMC S2 Telnet アクセス	リモートマネジメントコントローラへの Telnet アクセス画面を起動します。 →「4.14 iRMC S2 Telnet アクセス」(P.87)
ログアウト	リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのセッションからログアウトします。 →「4.15 セッションログアウト」(P.88)
再読み込み	リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェース画面の再読み込みを行います。

3.3 Web インターフェースの終了

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの終了方法について説明します。

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースを終了する場合は、メニューの「ログアウト」からログアウトしてください。



重要

- ▶ リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースを終了する場合は、必ずメニューの「ログアウト」からログアウトしてください。ログアウトせずに Web ブラウザを終了した場合、セッションタイムアウト時間（→「4.8.2 ポート番号とネットワークサービス」(P.53)）で設定された時間に自動的にログアウトされます。

第 4 章

情報の参照と設定

4

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

4.1 システム情報	26
4.2 iRMC S2	29
4.3 電源制御	35
4.4 電力制御	38
4.5 センサ	40
4.6 システムイベントログ	47
4.7 サーバ管理情報	50
4.8 ネットワーク	52
4.9 通知情報設定	57
4.10 ユーザ管理	60
4.11 コンソールリダイレクション	67
4.12 リモートストレージ	82
4.13 iRMC S2 SSH アクセス	84
4.14 iRMC S2 Telnet アクセス	87
4.15 セッションログアウト	88

4.1 システム情報

リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムのシステム情報を表示します。

4.1.1 システムの概要

システムの概要情報が表示されます。



表：システムの概要に表示される項目の説明

項目	説明
システム LED	システム LED の状態を表示します。
Error LED	サーバ前面の Error LED の点灯 (On) / 消灯 (Off) が表示されます。
CSS LED	サーバでユーザが交換可能なメモリや CPU の異常 (予兆) がある場合に点灯します。
識別灯	サーバのシステム識別灯の点灯 (On) / 消灯 (Off) が表示されます。情報名の右側に表示されている [出力 ON] / [出力 OFF] をクリックすることによって、点灯 (On) / 消灯 (Off) を切り替えることができます。
システム情報	ベースボードの情報が表示されます。
システムタイプ	サーバのシステムタイプが表示されます。
筐体タイプ	サーバのシャーシタイプが表示されます。
シリアル番号	ベースボードのシリアル番号が表示されます。
BIOS バージョン	BIOS のバージョンが表示されます。
ベースボード ID	ベースボード ID が表示されます。

表：システムの概要に表示される項目の説明

項目	説明
オペレーティングシステム の情報	OS の情報が表示されます。
サーバ名	OS で設定されたサーバ名が表示されます。
OS の種類	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	OS に設定された IP アドレスが表示されます。
場所	OS の SNMPService に設定されたシステムの場所が表示されます。
管理者	OS の SNMPService に設定された管理者名が表示されます。
ハードウェア情報	ハードウェアの情報が表示されます。
ハードウェア部品名	ハードに設定されている部品名です。
製造会社	各部品の製造会社が表示されます。
製品名 / モデル	製品名、またはモデル名が表示されます。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
部品番号	個体番号が表示されます。
バージョン / その他	バージョン情報が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

POINT

- ▶ 「場所」および「管理者」に日本語を使用している場合、文字化けして表示されます。この場合、WEB ブラウザのエンコードを、自動選択または日本語（シフト JIS）に変更してください。

4.1.2 システム構成情報

システムの内部構成情報が表示されます。

The screenshot shows the Fujitsu ServerView interface. The main content area is titled 'システム構成情報' (System Configuration Information). It contains two tables:

CPU情報

番号	センサ名称	状態	信号状態	CPUID	プラットフォームID	ブランドID	CPU周波数	ベース周波数	CSS対象
1	CPU	搭載	OK	006FD	07	00	2000	667	No

システムメモリ情報

番号	センサ名称	状態	メモリ構成	メモリセンサ	サイズ[MB]	動作周波数	認証状況	CSS対象
1	DIMM-1A	OK	Normal	OK	1024	667	No	No
2	DIMM-1B	空きスロット	Normal	OK				No
3	DIMM-2A	空きスロット	Normal	OK				No
4	DIMM-2B	空きスロット	Normal	OK				No

At the bottom of the interface, there is a 'SPDデータを表示' button and a footer with copyright information: © 2000-2008 Fujitsu/Siemens Computers. All rights reserved. The date and time are 05-Nov-2008 09:37:19.

表：システム構成情報に表示される項目の説明

項目	説明
CPU 情報	CPU の情報が表示されます。
番号	CPU の通し番号が表示されます。
センサ名称	CPU のセンサ名が表示されます。
状態	CPU の有無が表示されます。
信号状態	CPU の状態が表示されます。
CPU ID	CPU の ID が表示されます。
プラットフォーム ID	CPU のプラットフォーム ID が表示されます。
ブランド ID	CPU のブランド ID が表示されます。
CPU 周波数	CPU の動作周波数が表示されます。
ベース周波数	CPU のベースクロック周波数が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。
システムメモリ情報	サーバ搭載メモリ情報が表示されます。
番号	メモリカードの通し番号が表示されます。
センサ名称	メモリのセンサ名が表示されます。
状態	メモリスロットの搭載有無が表示されます。
メモリ構成	メモリの構成情報が表示されます。
メモリセンサ	メモリの状態が表示されます。
サイズ [MB]	メモリのサイズが [MB] 単位で表示されます。
動作周波数	メモリの動作周波数が [MHz] 単位で表示されます。
認証状況	メモリの認証状況を表示します (N/A、NO でも問題ありません)。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。
[SPD データ表示]	メモリのベンダ情報を表示します。

重要

- ▶ メモリの「状態」表示が「Prefailure」、「error」などの場合、メモリアクション（「エラーカウントのリセット」）が実施可能となります。この操作は保守操作です。なお、「状態」表示が「OK」のメモリに対して実施した場合は、エラーカウントがクリアされ、メモリの予兆監視が正しく行われなくなります。

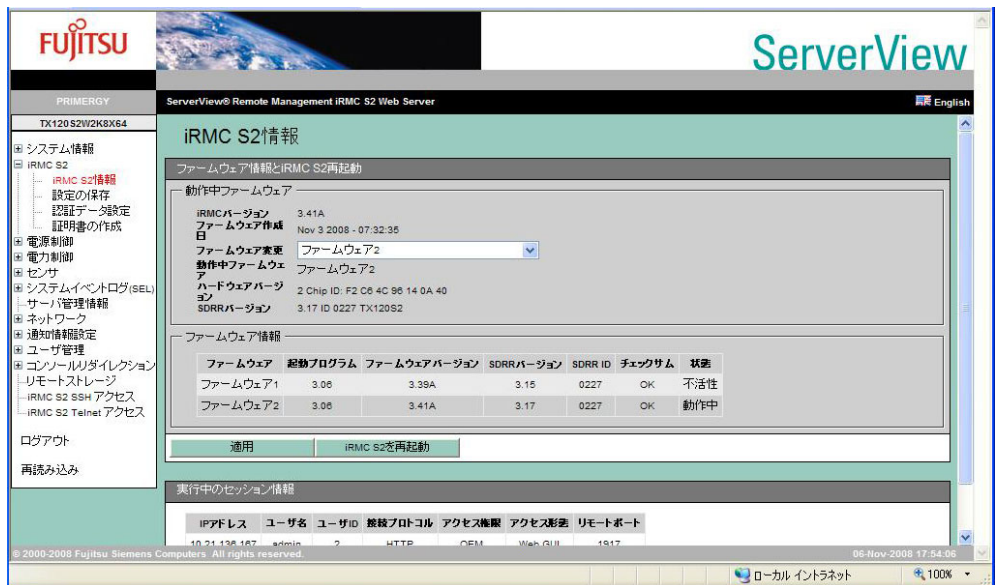


4.2 iRMC S2

リモートマネジメントコントローラに関する情報の表示／設定を行います。

4.2.1 iRMC S2 情報

リモートマネジメントコントローラの情報表示、設定を行います。



表：iRMC S2 情報に表示される項目の説明

項目	説明
ファームウェア情報と iRMC S2 再起動	iRMC S2 のファームウェア情報が表示されます。
iRMC バージョン	iRMC S2 のバージョンが表示されます。
ファームウェア作成日	iRMC S2 ファームウェアの作成日が表示されます。
ファームウェア変更	ファームウェアの位置 (ROM 内) が表示されます (変更禁止です)。
動作中ファームウェア	動作中のファームウェア番号 (ROM 内番号) が表示されます。
ハードウェアバージョン	サーバのハードウェアのバージョンが表示されます。
SDRR バージョン	センサ、しきい値を定義した情報のバージョンが表示されます。
ファームウェア情報	ファームウェア格納 ROM 内の情報です。
[適用]	設定の適用ボタンです。使用しません。
[iRMC S2 を再起動]	iRMC S2 のリポートを行います。
実行中のセッション情報	iRMC S2 に接続しているマシンの情報です。
IP アドレス	接続している (していた) マシンの IP アドレスが表示されます。
ユーザ名	iRMC S2 へのログイン ID が表示されます。

表：iRMC S2 情報に表示される項目の説明

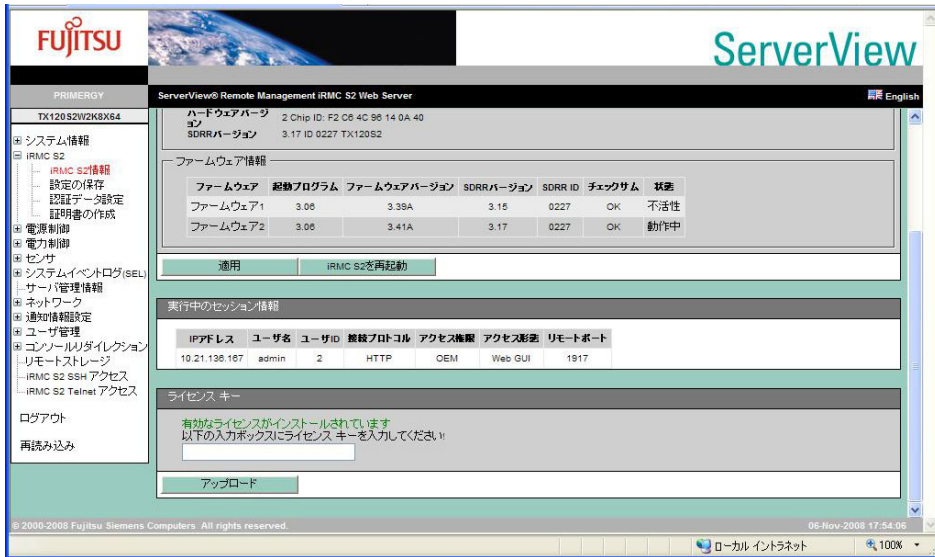
項目	説明
ユーザ ID	ログイン ID のユーザ番号です。→「4.10 ユーザ管理」(P.60)
接続プロトコル	接続プロトコルが表示されます。
アクセス権限	アクセス権限が表示されます。
アクセス形態	アクセス形態が表示されます。
リモートポート	接続マシンの使用ポートが表示されます。

POINT

- ▶ サーバの OS 上で ServerView エージェントが動作している場合、iRMC S2 のレポート実施後、ServerView エージェントの再起動が行われます。

4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定

リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定を行います。



表：リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定

項目	説明
ライセンスキー	マネジメントコントローラのライセンスキーを操作します。
[アップロード]	リモートマネジメントコントローラのライセンスを承認します。ライセンスが承認されるとビデオリダイレクション、リモートストレージ機能が使用可能になります。

POINT

- ▶ ライセンスキー、およびライセンスの設定方法の詳細はリモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルを参照してください。ライセンスが承認されていない状態ではビデオリダイレクション、リモートストレージ機能が使用できません。それぞれの機能については、「4.11.2 ビデオリダイレクション (AVR)」(→ P.69)、「4.11.5 リモートストレージ接続」(→ P.76)を参照してください。

4.2.3 iRMC S2 ファームウェア設定の保存

リモートマネジメントコントローラの設定情報データをバックアップします。



表：iRMC S2 ファームウェア設定の保存に表示される項目の説明

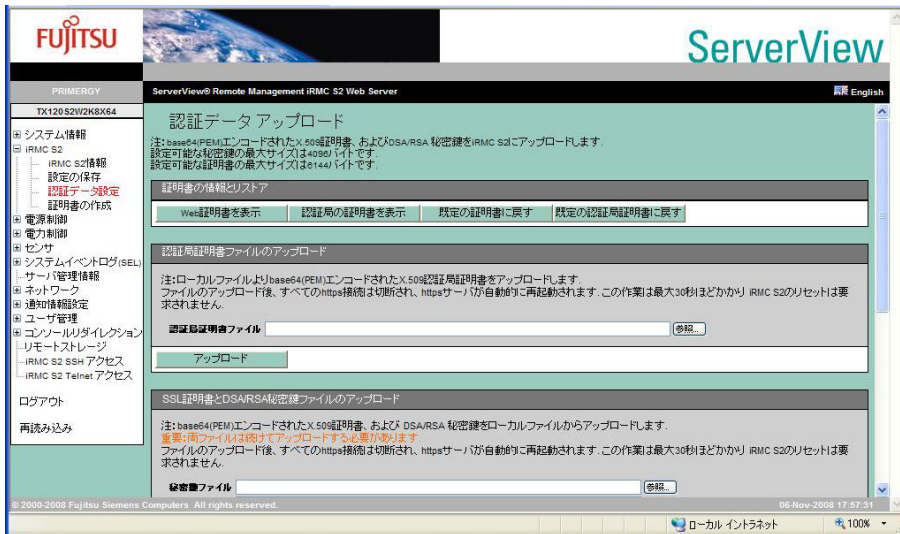
項目	説明
iRMC S2 ファームウェア設定を ServerView の XML 形式で保存	選択した項目を Windows 用 ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility でインポート可能な XML 形式でセーブします。
iRMC S2 ファームウェア設定を バイナリ (BMCCLONE.exe) で保存	選択した項目を BMCCLONE.exe ツールでインポート可能なバイナリ形式でセーブします。未サポートです。

POINT

- ▶ BMCCLONE.exe ツールは保守作業向けツールです。一般には提供されません。
- ▶ Server Core では ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility がいないため、保存したデータをインポートできません。

4.2.4 認証データ アップロード

リモートマネジメントコントローラの認証データをアップロードします。



表：認証データ アップロードに表示される項目の説明

項目	説明
証明書の情報とリストア	
[Web 証明書を表示]	適用されている Web 証明書が表示されます。
[認証局の証明書を表示]	適用されている認証局の証明書が表示されます。
[既定の証明書に戻す]	デフォルトの Web 証明書に戻します。
[既定の認証局証明書に戻す]	デフォルトの認証局の証明書に戻します。
認証局証明書ファイルのアップロード	認証局 (CA) 証明書を適用します。
認証局証明書ファイル	認証局 (CA) 証明書ファイルを指定します。[参照] をクリックすると、ファイルを選択できます。
[アップロード]	認証局 (CA) 証明書を適用します。
SSL 証明書と DSA/RSA 秘密鍵ファイルのアップロード	公的認証機関や独自の認証機関で作成された秘密鍵ファイル、および証明書ファイルを適用します。
秘密鍵ファイル	秘密鍵ファイルを指定します。[参照] をクリックすると、ファイルを選択できます。
証明書ファイル	証明書ファイルを指定します。[参照] をクリックすると、ファイルを選択できます。
[アップロード]	秘密鍵、および証明書を適用します。適用には秘密鍵ファイル、証明書ファイルの両方が必要です。
コピー & ペーストでの SSL DSA/RSA 証明書、および DSA/RSA 秘密鍵をアップロード	「秘密鍵」、「証明書」をファイルではなく、データ形式で適用します。テキストボックスに「秘密鍵」、「証明書」を貼り付けてください。
[アップロード]	テキストボックス内のデータを適用します。

POINT

- ▶ 認証局 (CA) の証明書アップロードは未サポートです。
- ▶ 証明書の秘密鍵は暗号化なしの Key を使用してください。

4.2.5 自己署名 RSA 証明書の作成

リモートマネジメントコントローラで RSA 認証データを取得します。



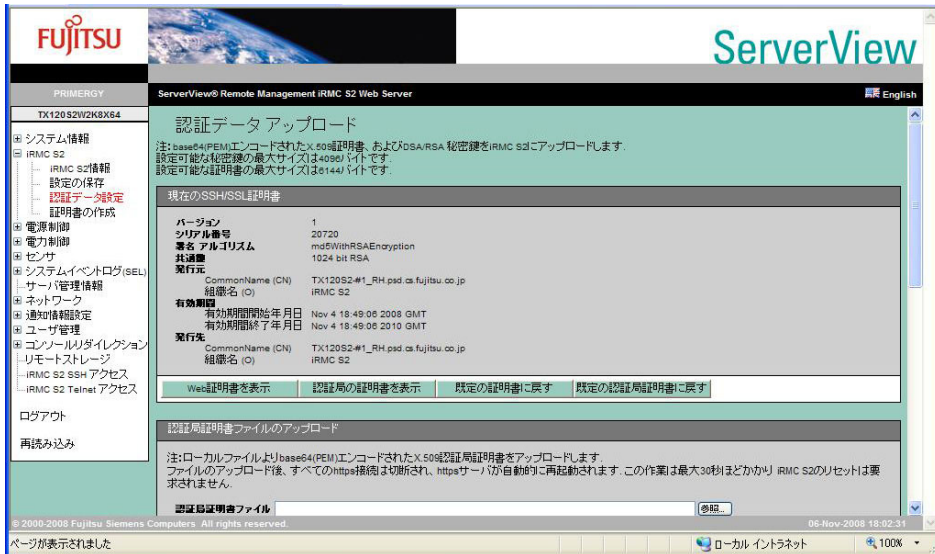
表：自己署名 RSA 証明書の作成に表示される項目の説明

項目	説明
証明書の情報とリストア	証明書の情報とリストア
[Web 証明書を表示]	現在設定されている認証 RSA データが表示されます。
[既定の証明書に戻す]	認証 RSA データをデフォルト設定に戻します。
証明書の作成	証明書を作成します。認証機関が使用できない場合、iRMC S2 内で証明書を作成します。
CommonName (CN)	iRMC S2 のアクセス名を指定します (ドメイン込みで指定)。
組織名 (O)	組織 (会社) 名を指定します。例: FUJITSU
部署名 (OU)	所属名を指定します。例: Solution Center
国名 (C)	国を指定します。日本は「JP」、アメリカは「US」など 2 字で指定します。
都道府県名 (ST)	都道府県名を指定します。
市区町村名 (L)	市区町村名を指定します。
E-mail アドレス	E-Mail アドレスを指定します。
有効期間開始年月日	証明書の有効開始日です。指定できません。
有効期日 [日]	証明書の有効期間 (日) を指定します。デフォルトは 730 日 (2 年) です。
暗号キー長 [bits]	暗号化のキー長 (Bit 長) を指定します。デフォルトは 1024Bit です。
[作成]	上記指定内容で証明書を作成します。作成には 5 分程度かかります。作成後は自動的に iRMC S2 へ適用されます。

POINT

- ▶ 「CommonName (CN)」、「有効期日 [日]」、「暗号キー長 [bits]」の設定だけでも証明書を作成することができます。

[Web 証明書を表示] をクリックすると、現在設定されている認証 RSA データが次のとおり表示されます。



4.3 電源制御

サーバの電源に関する設定を行います。

4.3.1 Power On/Off

サーバの電源の ON/OFF、再起動などの設定を行います。



表 : Power On/Off に表示される項目の説明

項目	説明
電源状態概要	現在の電源状態が表示されます。
電源状態	現在のサーバの電源状態が ON/OFF で表示されます。
電源投入からの稼働時間	サーバの電源状態が "ON" になってから現在までの、総稼働時間が表示されます。
電源投入要因	前回のサーバの電源投入要因が表示されます。
電源切断要因	前回のサーバの電源切断要因が表示されます。

表 : Power On/Off に表示される項目の説明

項目	説明
起動オプション	サーバ起動時の設定を行います。
POST エラー時の動作	<p>起動時にエラーが発生した場合のサーバの対応動作を設定します。設定値は次のとおりです。リストから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起動継続 起動時にエラーが発生しても、起動処理を続けます。 ・ 起動停止 起動時にエラーが発生すると、オペレータの介入があるまで起動を停止します。
起動デバイス選択	<p>起動するデバイスを選択します。設定値は次のとおりです。リストから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変更しない BIOS に設定されているデバイスを使用します。 ・ PXE/iSCSI PXE/iSCSI 装置より起動します。 ・ Hard-drive ハードディスク装置より起動します。 ・ CDROM/DVD CD-ROM/DVD 装置より起動します。 ・ Floppy フロッピーディスクより起動します。
電源制御	<p>サーバの電源制御を行います。各項目の動作は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源投入 サーバの電源が入ります。 ・ 電源切断 システム情報などを保存せずに、ただちにサーバの電源が切断されます。 ・ ハードリセット システム情報などを保存せずに、ただちにサーバがリセットされます。 ・ 電源 Off-ON システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断され、その直後に電源が投入されます。 ・ 電源切断 (シャットダウン) システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断されます。 ・ リセット (シャットダウン) システム情報などを保存してから、サーバの電源がリセットされます。 ・ NMI 発行 NMI 信号を発行します。 NMI がサポートされている装置でのみ動作します。

4.3.2 電源制御オプション

AC 電源復帰時の動作設定、およびサーバの自動電源投入、自動電源切断のスケジュール設定を行います。



表：電源制御オプションに表示される項目の説明

項目	説明
電源復旧時動作設定	<p>停電などによってサーバの電源断が起こった場合の、電源復旧時の動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源投入しない サーバは電源復旧の動作を行いません。 電源投入する サーバは自動で電源復旧の動作を行います。 電源断前の状態に戻す サーバの電源断が起こる直前の状態に戻します。 サーバの電源断前の状態が「On」：自動で電源復旧の動作を行います。 サーバの電源断前の状態が「Off」：電源復旧の動作を行わず、電源断の状態を維持します。
自動電源投入 / 切断時刻設定	<p>サーバが自動で行う電源投入の時刻と電源切断の時刻を設定します。時刻は、hh:mm 形式 (hh : 00 ~ 23 の 2 桁の時、mm : 00 ~ 59 の 2 桁の分) で入力します。毎日、もしくは曜日を指定して設定できます。サーバの電源投入 / 切断を行う内容の Trap を送信できます。サーバの電源投入 / 切断のどれくらい前に Trap を送信するかを [Trap] に分単位で指定します。</p>

4.4 電力制御

サーバの消費電力に関する設定を行います。

4.4.1 消費電力制御

サーバの消費電力に関する設定を行います。

表：消費電力制御に表示される項目の説明

項目	説明
電力制御オプション	サーバの消費電力に対する設定を行います。
電力制御	<p>サーバの消費電力に対する動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電力制御, 無効 消費電力に対する特別な動作は行いません。 性能優先動作 消費電力にかかわらず性能が最大となる動作にします。 省電力動作 消費電力を最も抑える動作にします。 スケジュール 曜日、時間単位で動作を切り替えるスケジュールを有効にします。
電力制御スケジュール	「電力制御」で「スケジュール」を選択した場合、この項目でのスケジュール設定が有効になります。設定方法については、「■ 電力制御スケジュール設定」(→ P.39)を参照してください。

POINT

- ▶ 電力制御機能で電力制御を行う場合は、BIOS セットアップユーティリティの「Advanced」メニュー内にある [Processor Power Management] または [Enhanced SpeedStep] 設定を有効にしてください。無効の場合、「電力制御」項目の設定は変更できません。

■ 電力制御スケジュール設定

「電力制御」で「スケジュール」を設定した場合、曜日ごと、もしくは各曜日2回までの消費電力に対する動作スケジュールが設定できます。

- 1** 設定を行いたい曜日の「時刻1」、または「時刻2」に動作を開始する時刻を入力します。
- 2** 入力した時刻に開始される動作を「モード1」、または「モード2」で選択します。
選択できる動作は「電力制御」(→ P.38)と同じです(スケジュールは除く)。
- 3** [適用] をクリックします。

設定内容が適用され、設定した曜日の設定した時刻に、選択した動作が開始されます。

POINT

- ▶ 時刻は、hh:mm 形式 (hh : 00 ~ 23 の 2 桁の時、mm : 00 ~ 59 の 2 桁の分) で入力します。
- ▶ 時刻1と時刻2に同じ時刻を設定した場合、時刻2の動作となります。
- ▶ すべての曜日に同じ設定を行いたい場合、「毎日」に設定するとすべての曜日に反映されます。
- ▶ 設定を無効にする場合は、入力してある設定時刻を消して、[適用] をクリックしてください。

4.5 センサ

サーバに搭載されたファン、温度センサ、電圧および電源ユニットの状態を参照できます。

4.5.1 ファン

サーバに搭載された各種ファン（CPU ファン、システムファン）の状態表示と異常時の動作設定を行います。



表：ファンに表示される項目の説明

項目	説明
ファンテスト	ファンの動作状態を調査する定時刻を設定します。「ファンテスト時刻」にファンの動作状態を調査する時刻を入力します。 時刻は、hh:mm 形式（hh：00～23の2桁の時、mm：00～59の2桁の分）で入力します。
[ファン回転数テスト開始]	クリックすると、ただちに現在のファンの動作状態を調査します。

表：ファンに表示される項目の説明

項目	説明
システムファン	現在のファンの状態が表示されます。また、ファンに異常が発生した場合の、システムの動作を設定します。
選択	異常が発生した場合の対応動作を設定するファンを選択します。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」(→ P.42)を参照してください。
番号	ファンの通し番号が表示されます。
センサ名称	ファンのセンサ名が表示されます。
回転数 [RPM]	現在のファン回転数が、RPM 形式で表示されます。
回転率 [%]	前回にファンの動作状態を調査したときの回転数を基準 (100) にして、現在のファンの回転数との割合が表示されます。単位は%です。
異常時動作	ファンに異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」(→ P.42)を参照してください。
シャットダウン待ち時間 [秒]	ファンに異常が発生した時間から、システムが対応を開始するまでの待ち時間が、秒単位で表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」(→ P.42)を参照してください。
状態	現在のファンの状態が、異常な状態かどうかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ running : 問題ありません ・ not installed : 未搭載 ・ failed : 異常 ・ Power Off : サーバの電源が Off のため状態が取得できません
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

POINT

- ▶ ファンの電源が切断されているなどの理由により、ファンの情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

■ ファンに異常が発生した場合の動作設定

ファンに異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。

1. 対象ファンを選択

2. 対応動作を選択

3. 待ち時間を入力

4. クリックして設定を反映

- 1 「選択」欄から、設定対象のファンのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ このとき、[すべて選択] をクリックすると、表示されているすべてのファンが選択できます。また、[すべて選択解除] をクリックすると、現在選択しているすべてのファンの選択を解除できます。

- 2 下段に表示されている動作設定リストから、「継続稼動」または「シャットダウン & 電源断」を選択します。

表：ファン動作設定項目

動作	説明
継続稼動	ファンの異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
シャットダウン & 電源断	ファンの異常を検知した場合は、設定した待ち時間（この待ち時間は、次の手順で設定します）が経過するまでは、システムはそのまま動作を続けます。その後、待ち時間を経過しても異常から復旧しない場合は、システムは自動でシャットダウンを行います。

- 3 システムがファン異常への対応を開始するまでの、待ち時間を入力します。単位は「秒」です。0～300までの数値を入力できます。

- 4 [選択したファンに適用] をクリックして、各設定値を反映させます。

画面上の各項目で、設定値が反映されたことを確認してください。

- ・対応動作の設定→「異常時動作」欄
- ・待ち時間の設定→「シャットダウン待ち時間」欄

4.5.2 温度

サーバ内の各温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。



表：温度に表示される項目の説明

項目	説明
温度センサ情報	現在の温度センサの状態が表示されます。また、温度異常が発生した場合のシステムの動作を設定します。
選択	温度異常が発生した場合、対応動作を設定する温度センサを、チェックボックスにチェックを付けて選択します。対応動作の設定方法は、「 温度異常が発生した場合の動作設定 」(→ P.44)を参照してください。
番号	温度センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	温度センサ名が表示されます。
温度 [°C]	現在の温度値が表示されます。
警告レベル	警告レベルの温度値が表示されます。
危険レベル	異常レベルの温度値が表示されます。
異常時動作	温度異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「 温度異常が発生した場合の動作設定 」(→ P.44)を参照してください。
状態	現在の温度値から、異常な状態かどうか判断されて表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • OK：問題ありません • N/A：未接続 • Warning：警告 • Critical：異常 • Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- ▶ 温度情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

■ 温度異常が発生した場合の動作設定

温度異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。

温度

温度センサー情報

選択	番号	センサー名称	温度[°C]	警告レベル	危険レベル	異常時動作	状態
<input type="checkbox"/>	0	AMBTEMP1	49	57	74	継続稼働	OK
<input checked="" type="checkbox"/>	1	Systemboard	39	50	57	継続稼働	OK
<input checked="" type="checkbox"/>	2	CPU	30	90	95	継続稼働	OK

すべて選択 すべて選択解除

選択した温度センサーの異常時動作は [継続稼働]

選択したセンサーに適用

1. 対象温度センサを選択

2. 対応動作を選択

3. クリックして設定を反映

- 1 「選択」欄から、設定対象の温度センサのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ▶ このとき、[すべて選択] をクリックすると、表示されているすべての温度センサが選択できます。また、[すべて選択解除] をクリックすると、現在選択しているすべての温度センサの選択を解除できます。

- 2 下段に表示されている動作設定リストから、「継続稼働」または「シャットダウン & 電源断」を選択します。

表：温度センサー動作設定項目

動作	説明
継続稼働	温度異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
シャットダウン & 電源断	温度異常を検知した場合は、システムが自動でシャットダウンを行います。

- 3 [選択したセンサーに適用] をクリックして、設定値を反映させます。

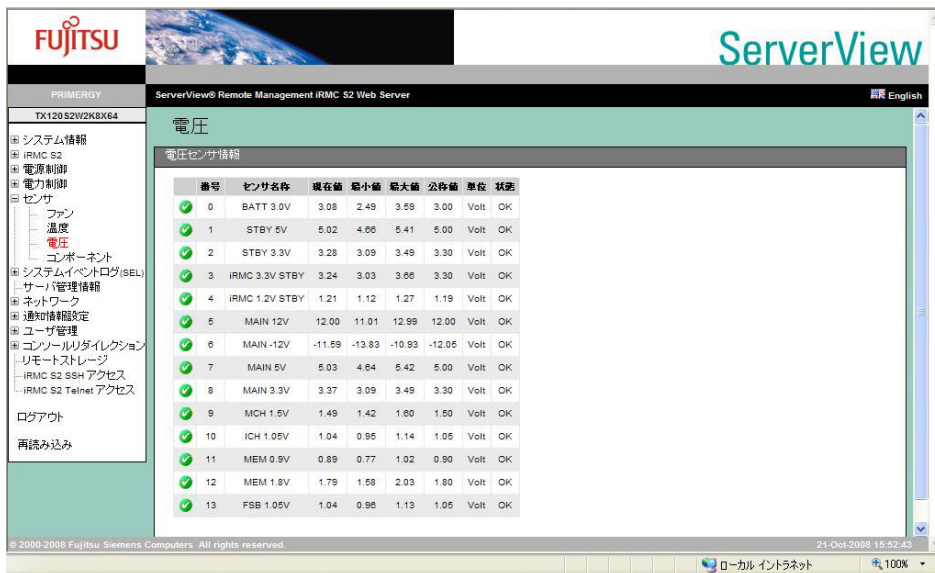
「異常時動作」欄で、設定値が反映されたことを確認してください。

POINT

- ▶ 温度異常時における、対応動作までの待ち時間の設定はありません。異常を検知した場合、ただちに対応動作を行います。

4.5.3 電圧

サーバ内の各電圧値を参照します。



表：電圧に表示される項目の説明

項目	説明
電圧センサ情報	電圧センサに関する情報です。
番号	電圧センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	電圧センサ名が表示されます。
現在値	現在の電圧値が表示されます。
最小値	許容最小電圧値が表示されます。
最大値	許容最大電圧値が表示されます。
公称値	規定された電圧値が表示されます。
単位	電圧の単位が表示されます。
状態	現在の電圧値から、異常な状態かどうか判断されて表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ OK：問題ありません ・ N/A：未接続またはデジタルセンサ（ON/OFFのみ） ・ Upper-Warn：上限警告 ・ Lower-Warn：下限警告 ・ Upper-Crit：上限異常 ・ Lower-Crit：下限異常 ・ Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- ▶ 「電圧」では、異常時におけるシステムの対応動作の設定はありません。

4.5.4 センサの状態

サーバ内の各センサの状態を表示します。



表：センサの状態に表示される項目の説明

項目	説明
コンポーネントの状態 センサ情報	
番号	センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	センサ名が表示されます。
センサ種類 ID	センサの種類が表示されます。
センサ種類別通し番号	センサの種類ごとの通し番号が表示されます。
LED 点灯状況	センサ LED の点灯状況が表示されます。
信号状態	センサの状態が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

4.6 システムイベントログ

サーバのシステムイベントログの表示、および表示設定を行います。

4.6.1 システムイベントログ内容

ベースボード上に格納されるイベントログ (SEL) を参照します。



表：システムイベントログ内容に表示される項目の説明

項目	説明
システムイベントログ (SEL) 情報	イベントログに関する情報が表示されます。
イベントログの状態	現在のイベントログ数が表示されます。
最新のエントリ	最後にログされた日時が表示されます。
クリア日時	イベントログがクリアされた日時が表示されます。
[ログのクリア]	すべてのシステムイベントログがクリアされます。
[ログの保存]	システムイベントログを Text 形式で退避します。

表：システムイベントログ内容に表示される項目の説明

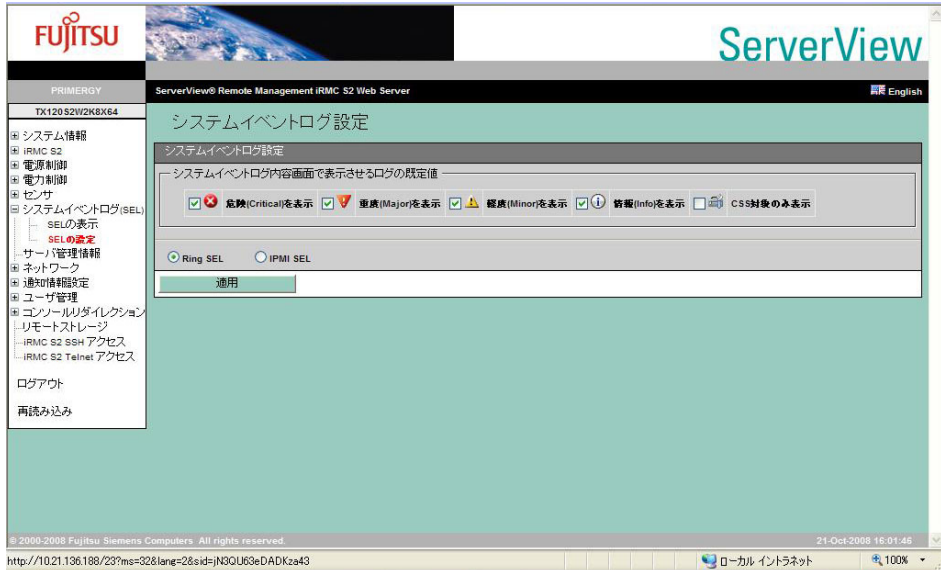
項目	説明
システムイベントログ内容	イベントログ一覧です。各項目（チェックボックス）を選択し [適用] をクリックすると、選択した内容が表示されます。
危険 (Critical) を表示	「Critical」レベルのイベントログを表示します。
重度 (Major) を表示	「Major」レベルのイベントログを表示します。
軽度 (Minor) を表示	「Minor」レベルのイベントログを表示します。
情報 (Info) を表示	「Information」レベルのイベントログを表示します。
CSS 対象のみ表示	「CSS」が有効なイベントログのみを表示します。
発生日時	イベントの発生日時が表示されます。
重要度	イベントの重要度が表示されます。重要度は低い順から、Info / Minor / Major / Critical の4段階があります。
発生元	イベントの発生元が表示されます。
内容	発生したイベント内容が表示されます。
種別	イベントの種別が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能なモジュールで発生したイベントであるか否かが表示されます。

POINT

- ▶ システムイベントログの最大格納数は256～512個ほどで、サーバ（BIOS）により異なります。
- ▶ システムイベントログの格納方法（上書きなど）は、サーバ本体に添付の『ユーザズガイド』を参照してください。

4.6.2 システムイベントログ設定

「4.6.1 システムイベントログ内容」(→ P.47) で表示させるシステムイベントログのデフォルト設定を行います。



表：システムイベントログ設定に表示される項目の説明

項目	説明
システムイベントログ内容画面で表示させるログの既定値	システムイベントログ内容画面で初期表示させるシステムイベントログのレベルを指定します。
危険 (Critical) を表示	「Critical」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
重度 (Major) を表示	「Major」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
軽度 (Minor) を表示	「Minor」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
情報 (Info) を表示	「Information」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
CSS 対象のみ表示	「CSS」が有効なイベントログのみの表示をデフォルトで設定します。
Ring SEL	Ring SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。
IPMI SEL	IPMI SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。

POINT

- ▶ システムイベントログ設定の内容は iRMC S2 へのログイン時に反映されます。

4.7 サーバ管理情報

サーバ管理情報の表示と設定を行います。

POINT

- ▶ サーバによっては、設定できる内容に制約がある場合があります。詳細はサーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。



表：サーバ管理情報に表示される項目の説明

項目	説明
ASR&R オプション	サーバの再起動に関する設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
ASR & R 起動間隔	ファン異常、または温度異常によるシャットダウンが行われた後、ここで設定した時間（単位：分）が経過すると、サーバは自動で電源を投入します。ただし、「リトライカウンタ」の設定値が0の場合は、自動起動しません。
リトライカウンタ	異常が発生し、サーバがシャットダウンされた後の自動再起動回数を、0～7の間で設定します。このカウンタ値は、ファン異常、温度異常、ソフトウェアウォッチドッグタイムアウト、Bootウォッチドッグタイムアウトで再起動が行われるたびに、1ずつ減少します。カウンタ値が0になると、自動起動しません。 注意事項： ▶ 本項目の設定を変更した場合、設定をサーバに反映させるためにサーバの再起動が必要です。

表：サーバ管理情報に表示される項目の説明

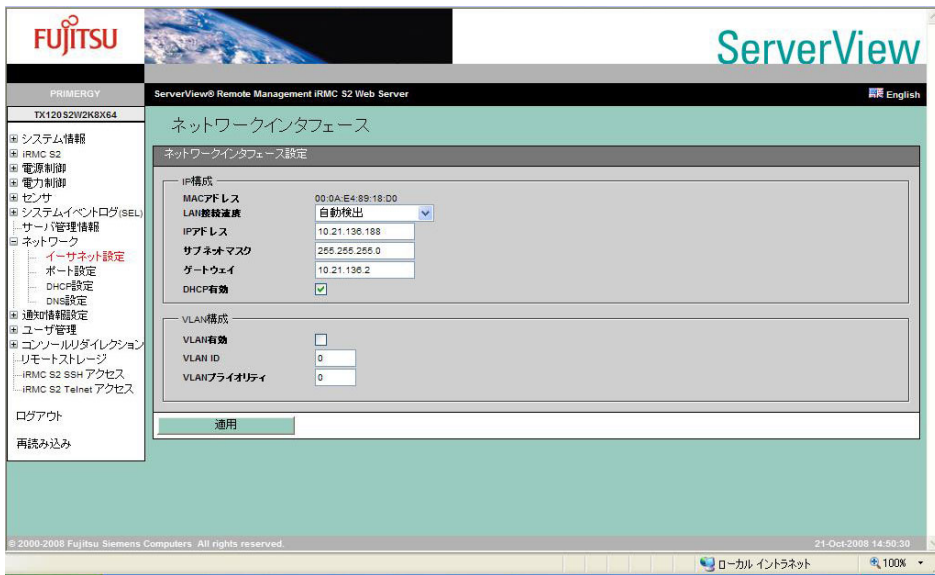
項目	説明
BIOS の自動書き換え	BIOS の自動書き換えを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効 自動書き換えを有効にします。BIOS 自動書き換えエリアに書き換え対象の BIOS イメージが設定されている場合、自動的に BIOS の書き換えが行われます。未サポートです。 無効 自動書き換えを無効にします。
パワー サイクル間隔	パワー サイクル実行時に、Power Off から Power On を行うまでの時間を 0 ～ 15（単位は秒）で設定します。
ウォッチドッグ設定	指定した時間内に OS からの応答がない場合や、Boot が終了しなかった場合の動作を設定します。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
有効	ソフトウェア ウォッチドッグ、Boot ウォッチドッグを有効にします。 注意事項： ▶ 本項目の設定を変更した場合、設定をサーバに反映させるためにサーバの再起動が必要です。
ソフトウェアウォッチドッグ	OS からの応答の有無監視をします。 <ul style="list-style-type: none"> パワー サイクル タイムアウト時に、Power Off/On を行います。 リセット タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 継続稼働 タイムアウト時に、何も行いません。
Boot ウォッチドッグ	Boot（BIOS 終了後から OS が起動されるまで）の時間を監視します。 <ul style="list-style-type: none"> パワー サイクル タイムアウト時に、Power Off/On を行います。 リセット タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 継続稼働 タイムアウト時に、何も行いません。
タイムアウト時間指定	1 ～ 100 まで指定できます（単位は分）。サーバ（BIOS）により、最大設定時間や指定できる値が異なります。
HP SystemInsightManager (HP SIM) 連携オプション	HP 社の SIM からの応答要求に対する設定を行います。
SIM 連携無効	HP 社の SIM への応答を行わない設定にします。

4.8 ネットワーク

リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定の参照、変更を行います。

4.8.1 ネットワーク インタフェース

リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどの設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。



表：ネットワークインタフェースに表示される項目の説明

項目	説明
IP 構成	
MAC アドレス	リモートマネジメントコントローラに搭載された、LAN の MAC アドレスが表示されます。
LAN 接続速度	LAN 接続速度を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 自動検出 接続速度を自動検出し、設定します。 100MBit/s 全二重 100MBit/s 全二重で接続します。 100MBit/s 半二重 100MBit/s 半二重で接続します。 10MBit/s 全二重 10MBit/s 全二重で接続します。 10MBit/s 半二重 10MBit/s 半二重で接続します。
IP アドレス	リモートマネジメントコントローラの IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	リモートマネジメントコントローラのサブネットマスクを指定します。

表：ネットワークインタフェースに表示される項目の説明

項目	説明
ゲートウェイ	リモートマネジメントコントローラのゲートウェイアドレスを指定します。
DHCP 有効	リモートマネジメントコントローラのイーサネット設定に DHCP を使用する場合に、チェックします。 設定を有効にすると、上記の設定値より DHCP が優先されるようになります。
VLAN 構成	
VLAN 有効	VLAN を使用する場合にチェックします。
VLAN ID	VLAN の ID を設定します。
VLAN プライオリティ	VLAN のプライオリティを設定します。

重要

- ▶ VLAN の各項目に間違った値を設定すると、リモートマネジメントコントローラへの Web インターフェース、SSH、Telnet への接続ができなくなる場合があります。設定の際には、十分注意してください。

4.8.2 ポート番号とネットワークサービス

各アクセスのポート番号の設定を行います。



表：ポート番号とネットワークサービスに表示される項目の説明

項目	説明
Web アクセス	
セッションタイムアウト時間	Web インターフェース接続の自動切断時間 (秒) を設定します。デフォルトでは「300」に設定されています。
HTTP ポート	HTTP へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「80」に設定されています。

表：ポート番号とネットワークサービスに表示される項目の説明

項目	説明
HTTPS ポート	HTTPS へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「443」に設定されています。
HTTPS 接続のみ有効	HTTPS 接続のみを有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「無効」に設定されています。
自動リフレッシュ有効	自動リフレッシュを行う場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。
自動リフレッシュ間隔	自動リフレッシュを行う場合の間隔（秒）を指定します。デフォルトでは「120」に設定されています。
text アクセス	
Telnet ポート	Telnet へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「3172」に設定されています。
Telnet ドロップアウト時間	Telnet 接続時の自動切断時間（秒）を指定します。デフォルトでは「600」に設定されています。
SSH ポート	SSH 経由でアクセスを行う場合のポート番号を指定します。デフォルトでは「22」に設定されています。
Telnet 有効	Telnet 接続を有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。
AVR アクセス	
標準ポート	ビデオリダイレクションを行う場合のポート番号を表示します。デフォルトは「80」です（HTTP の設定ポートと連動）。
セキュアポート	ビデオリダイレクションで SSH/SSL を使用する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「443」です（HTTP の設定ポートと連動）。
リモートストレージポート	
標準ポート	ビデオリダイレクションでリモートストレージを接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5901」です。

POINT

- ▶ 「セッションタイムアウト時間」の設定時間より「自動リフレッシュ間隔」の設定時間が短い場合、Web インターフェース接続の自動切断は行われません。
- ▶ Telnet/SSH の接続は iRMC S2 WebUI から接続してください。それ以外の接続は未サポートです。

4.8.3 DHCP 構成

DHCP に関する設定を行います。

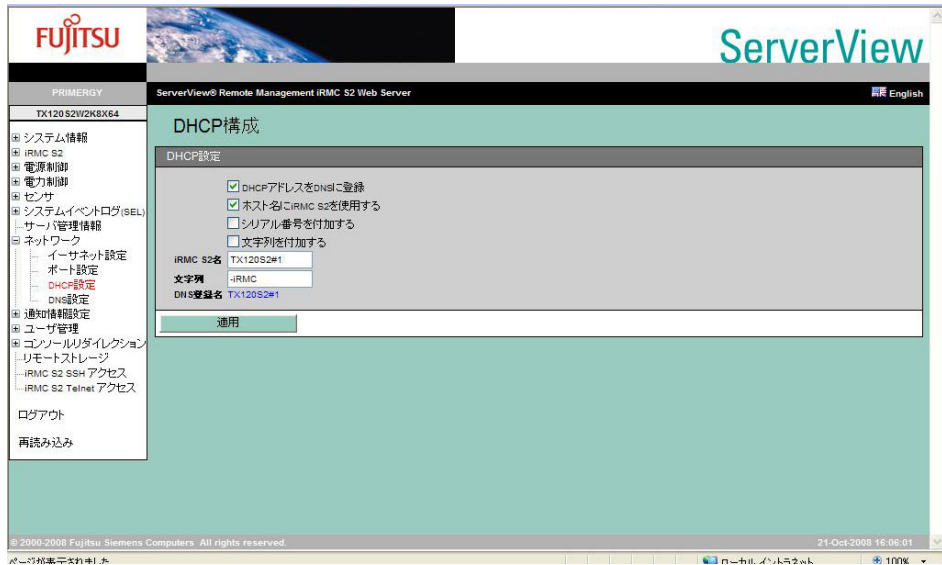


表 : DHCP 構成に表示される項目の説明

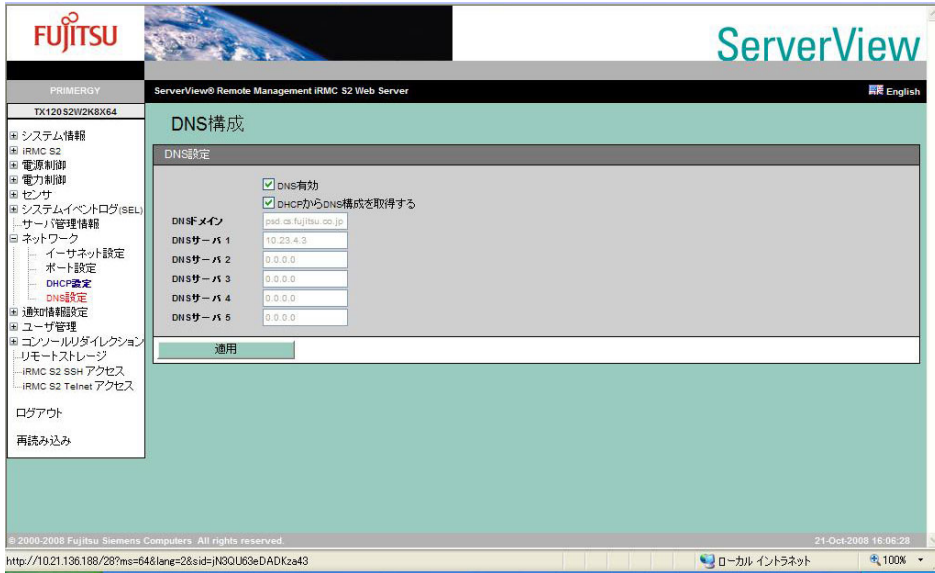
項目	説明
DHCP アドレスを DNS に登録	有効に設定すると、DNS へ DHCP 取得アドレスを登録します。
ホスト名に iRMC S2 を使用する	有効に設定すると、「iRMC S2 名」に入力された文字を DNS 登録名として使用します。
シリアル番号を付加する	有効に設定すると、DNS 登録名にシリアル番号を付加します。
文字列を付加する	有効に設定すると、「文字列」に入力された文字を DNS 登録名の最後に付加します。
DNS 登録名	DNS への登録名が表示されます。

POINT

- ▶ 設定された「DNS 登録名」は Web ブラウザの最上位部（タイトルバー）に表示されます。

4.8.4 DNS 構成

DNS に関する設定を行います。



表：DNS 構成に表示される項目の説明

項目	説明
DNS 有効	有効に設定すると、名前の解決に DNS を使用します。
DHCP から DNS 構成を取得する	有効に設定すると、DHCP から DNS の設定を取得します。
DNS ドメイン	DNS ドメインを設定します。
DNS サーバ 1 ～ 5	DNS サーバ 1 ～ 5 の IP を設定します。

4.9 通知情報設定

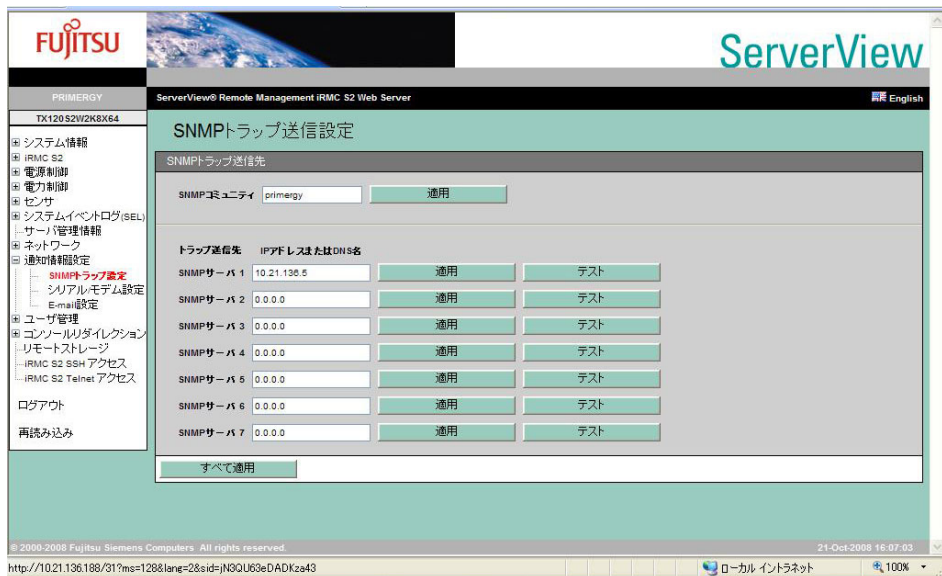
SNMP トラップおよび E-mail の送信設定を行います。また、SNMP トラップのテスト送信が行えます。

POINT

- ▶ シリアル / モデム送信設定は未サポートです。

4.9.1 SNMP トラップ送信設定

SNMP トラップの送信設定を行います。



表：SNMP トラップ送信設定に表示される項目の説明

項目	説明
SNMP コミュニティ	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名を設定します。デフォルトは「public」に設定されています。コミュニティ名を入力後、[適用] をクリックして決定します。受信サーバでトラップを受信するには、SNMP 受信のコミュニティ名が同じ名前になっている必要があります。
トラップ送信先	SNMP トラップの送信先サーバ（トラップ受信サーバ）の IP アドレスを指定します。送信先サーバは 7 か所まで指定可能です。送信先サーバの IP アドレスを入力後、[適用] をクリックし、設定を反映します。DNS を有効に設定してある場合は、IP の代わりにサーバ名を設定することもできます。[テスト] をクリックすると、設定したサーバに対し Test トラップを送信します。
[すべて適用]	各設定値を入力後、[すべて適用] をクリックすると、すべての設定値が反映されます。

4.9.2 E-mail 設定

E-mail の設定を行います。

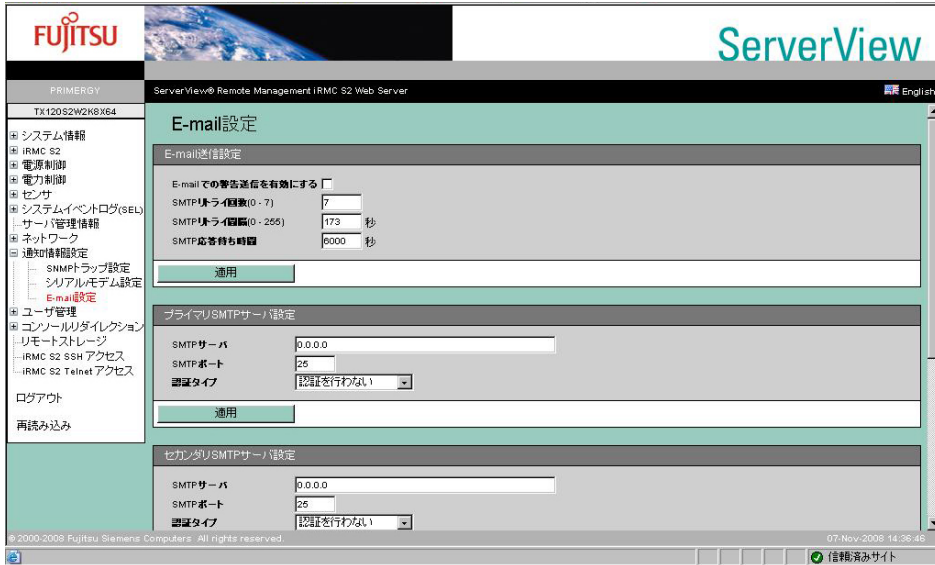


表 : E-mail 設定に表示される項目の説明

項目	説明
E-mail 送信設定	SMTP サーバに対する設定を行います。
E-mail での警告送信を有効にする	SMTP サーバに対する設定の有効/無効を設定します。
SMTP リトライ回数	E-mail 送信エラーとなった場合の、リトライ回数を設定します。
SMTP リトライ間隔	リトライを行う間隔 (秒) を設定します。
SMTP 応答待ち時間	SMTP サーバからのレスポンス待ち時間 (秒) を設定します。
プライマリ SMTP サーバ設定	プライマリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP サーバ	プライマリ SMTP サーバの IP (DNS 有効であればサーバ名でも可) を設定します。
SMTP ポート	プライマリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
認証タイプ	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証を行わない SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・ 認証を行う (RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。

表：E-mail 設定に表示される項目の説明

項目	説明
セカンダリ SMTP サーバ 設定	セカンダリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP サーバ	セカンダリ SMTP サーバの IP (DNS 有効であればサーバ名でも可) を設定します。
SMTP ポート	セカンダリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
認証タイプ	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証を行わない SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・ 認証を行う (RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。
E-Mail 送信フォーマット	E-mail の送信フォーマットを設定します。
送信元	送信元の名前を設定します。
題名	E-mail の題名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
メッセージ	E-mail 本文に付加するメッセージを設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
管理者名	送信元の管理者名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
管理者電話番号	送信元の管理者電話番号を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
装置 ID	REMCS ID を設定します。ただし、設定が有効になるのは REMCS フォーマット時のみです。
送信元サーバ URL	送信元の URL を設定します。

POINT

- ▶ 「E-Mail 送信フォーマット」で設定できるのは、送信フォーマットのみです。送信先の指定や送信レベルの設定は、「4.10 ユーザ管理」(→ P.60)で行います。
- ▶ E-mail 送信で指定するメールサーバのメールソフトの種類、または LAN 回線の速度などによりメールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「E-mail 送信設定」の「SMTP 応答待ち時間」の値を 50 秒程度に変更してください。

4.10 ユーザ管理

リモートマネジメントコントローラやディレクトリサービスにログインする設定を行います。

4.10.1 ユーザ管理

リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ名/パスワードの設定や、ユーザ名に対する動作レベル、E-mail 送信に関する詳細設定を行います。



表：ユーザ管理に表示される項目の説明

項目	説明
有効	ユーザの有効/無効が表示されます。
ID	ユーザの通し番号が表示されます。
名前	ユーザ名が表示されます。
説明	ユーザの説明が表示されます。
LAN アクセス権限	LAN ポート経由のアクセス権限が表示されます。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由のアクセス権限が表示されます。未サポートです。

[削除] をクリックすると、登録されているユーザが削除されます。デフォルトで作成されるユーザ名/パスワード、および権限については、「2.1 準備」(→ P.14) を参照してください。

重要

- ▶ 以下の場合、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースへのアクセスができなくなるか、使用できる機能が限定され、「ユーザ」の作成および変更ができなくなります。
 - ・ すべてのユーザを削除した場合
 - ・ Administrator/OEM のアクセス権限を持つユーザをすべて削除、または権限変更した場合
 この場合、以下の手順で、サーバ本体に添付されている「Server Management Tools」を使用して復元してください。
 1. 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットしてサーバの電源を入れます。
 2. Server Management Tools (IPMI-Tool) を起動します。
Server Management Tools の起動方法については、サーバに添付の PRIMERGY スタートアップディスク内に格納の『ユーザズガイド』を参照してください。
 3. IPMI-Tool 画面が表示されたら、「User Management」を選択します。
 4. 1～16 のいずれかを選択します。
既存の User ID の権限を変更する場合は、手順 7へ進んでください。
 5. 「User Name」、「Password」および「Confirm Password」を入力します。
 6. 【F1】キー (Set Value) を押して設定を保存し、【Esc】キーを押して User 設定画面に戻ります。
 7. 【F2】キー (Configure Access) を押して「2 802.3_LAN」を選択し、[Privilege Limit] で「5」(OEM) を選択します。
 8. 【F1】キー (Set Value) を押して設定を保存します。
【Esc】キーを数回押して、IPMIview を終了します。

■ ユーザ情報の変更

登録されているユーザ名をクリックすると、登録されている設定を変更できます。

表：ユーザ構成に表示される項目の説明

項目	説明
iRMC S2 ユーザ情報	ユーザ情報を設定します。
ユーザを有効にする	ユーザの有効/無効を設定します。有効から変更できません。
名前	ユーザ ID を設定します。
パスワード	パスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
説明	ユーザの説明を設定します。
使用シェル	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。「Remote Manager」以外は未サポートです。
権限 / 許可	動作レベルを設定します。
LAN アクセス権限	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ USER ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 ・ Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 ・ Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 ・ OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
ユーザアカウント変更権限	ユーザアカウントの変更権限を与えます。
iRMC S2 設定変更権限	iRMC S2 の設定変更権限を与えます。
AVR 使用権限	ビデオリダイレクションの使用権限を与えます。
リモートストレージ使用権限	リモートストレージの使用権限を与えます。

重要

▶ ユーザアカウントの制限は次のとおりです。

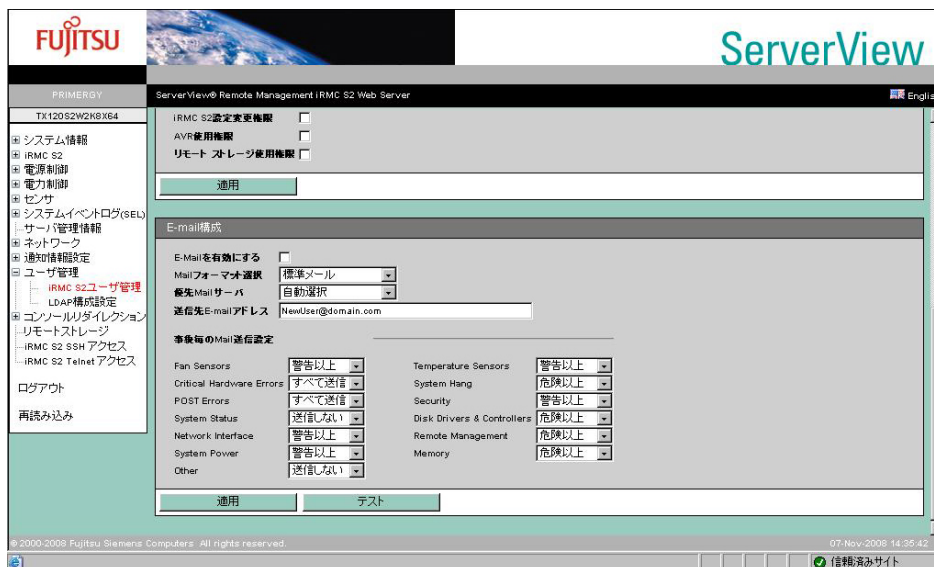
- ・ ユーザ ID 文字数
16Byte
- ・ パスワード 文字数
15Byte

なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で以下の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。

> < " / ¥ = ! ? ; , &

■ E-Mail 送信設定

ユーザごとの E-Mail 送信設定を行います。



表：E-mail 構成に表示される項目の説明

項目	説明
E-Mail を有効にする	設定の有効／無効を設定します。
Mail フォーマット選択	送信する E-mail のフォーマットを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Standard 通常の E-mail フォーマットです。 ITS-Format ITS 形式の E-mail フォーマットです。未サポートです。 Fujitsu REMCS-Format REMCS 形式の E-mail フォーマットです。
優先 Mail サーバ	「4.9.2 E-mail 設定」(→ P.58) で設定した SMTP サーバから使用する SMTP サーバを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 自動選択 プライマリ、セカンダリの順で使用可能な SMTP サーバが選択されます。 プライマリ プライマリ SMTP サーバで設定した SMTP サーバを使用します。 セカンダリ セカンダリ SMTP サーバで設定した SMTP サーバを使用します。
送信先 E-mail アドレス	送信先 E-mail アドレスを設定します。
事象毎の Mail 送信設定	E-mail を送信する事象を選択します。事象ごとに設定します。各事象での選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 送信しない E-mail を送信しません。 危険以上 危険レベルの事象発生時に、E-mail を送信します。 警告以上 警告レベル以上の事象発生時に、E-mail を送信します。 すべて送信 事象が発生したすべてのレベルに対して、E-mail を送信します。
[テスト]	E-mail のテスト送信を行います。

■ ユーザ情報の新規作成

[ユーザの新規作成] をクリックすると、ユーザを新規に作成できます。



表：新規ユーザの構成に表示される項目の説明

項目	説明
ユーザを有効にする	ユーザの有効/無効を設定します。有効から変更できません。
名前	ユーザ ID を設定します。
パスワード	パスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
ユーザの説明	ユーザの説明を設定します。
使用シェル	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。Remote Manager 以外は未サポートです。
LAN アクセス権限	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • USER ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 • Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 • Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 • OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
ユーザアカウント変更権限	ユーザアカウントの変更権限を与えます。
iRMC S2 設定変更権限	iRMC S2 の設定変更権限を与えます。
AVR 使用権限	ビデオリダイレクションの使用権限を与えます。
リモートストレージ使用権限	リモートストレージの使用権限を与えます。

重要

▶ ユーザアカウントの制限は次のとおりです。

- ・ ユーザ ID 文字数：16Byte
- ・ パスワード 文字数：15Byte

なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で以下の記号は問題が発生する可能性があります。使用しないようにしてください。

> < " / ¥ = ! ? ; , &

4.10.2 ディレクトリサービス構成

リモートマネジメントコントローラでディレクトリ サービスを使用するための設定を行います。



表：ディレクトリ サービス構成に表示される項目の説明

項目	説明
ディレクトリ サービス構成設定	
LDAP を有効にする	ディレクトリ サービスアクセスを有効にします。
LDAP SSL 接続を有効にする	ディレクトリ サービスへSSLでのアクセスを有効にします。
ローカル ID でのログインを無効にする	ディレクトリ サービス有効時、ローカル ID でのログインを無効にします。
常に SSL ログインを使用する	ディレクトリ サービス有効時、iRMC S2 へのアクセスを SSL 接続に制限します。

表：ディレクトリ サービス構成に表示される項目の説明

項目	説明
ディレクトリ サーバタイプ	ディレクトリ サービスのタイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Active Directory ディレクトリ サービスのタイプを「Active Directory」とします。 • Novell ディレクトリ サービスのタイプを「Novell」とします。未サポートです。 • OpenLDAP ディレクトリ サービスのタイプを「OpenLDAP」とします。未サポートです。
LDAP サーバ1	ディレクトリ サービスのサーバ IP を設定します。
LDAP サーバ2	ディレクトリ サービスのサーバ IP を設定します。
ドメイン名	ディレクトリ サービスアクセスのドメイン名を指定します。
Base DN	設定されているドメインが表示されます。
Dept. name	ディレクトリ サービスの部署名を設定します。
ディレクトリ サービス アクセス構成	
LDAP 認証ユーザ名	ディレクトリ サービスへアクセスするユーザ ID を設定します。
LDAP 認証パスワード	ディレクトリ サービスへアクセスするパスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。

POINT

- ▶ リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用するには、ディレクトリ サービスにリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要です。設定方法は「付録 A LDAP を使用する場合の設定」（→ P.90）を参照してください。
- ▶ LDAP を有効に設定すると、ログイン画面は SSL アクセスとなります。

4.11 コンソールリダイレクション

コンソール（出力画面）のリダイレクションに関する設定、表示（動作）を行います。

4.11.1 BIOS テキストコンソール

テキストコンソールリダイレクション設定を行います。



重要

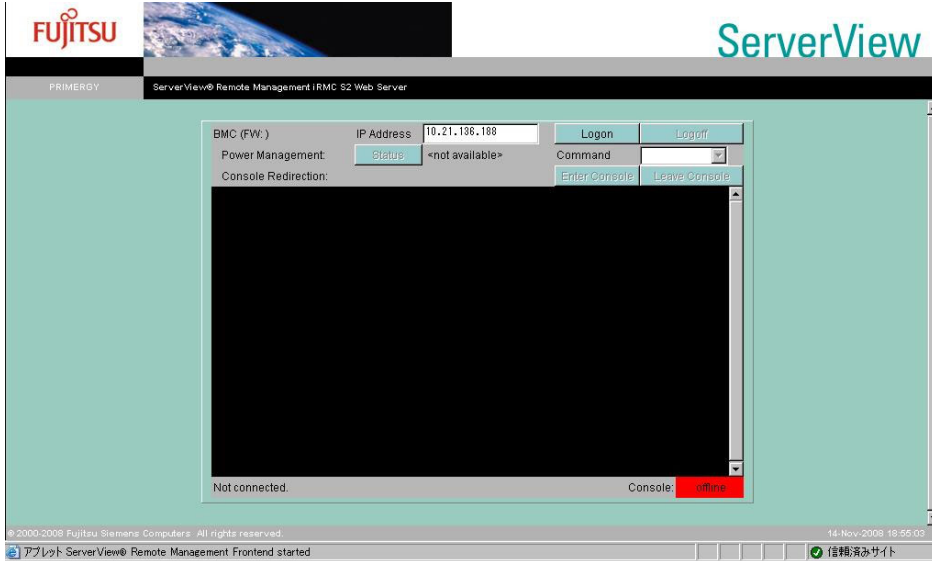
- ▶ BIOS テキストコンソールを使用する際の各設定値は、次のとおりに設定してください。

表：BIOS テキストコンソールの設定値

項目	設定値
コンソールリダイレクションを有効にする	チェックする
コンソールリダイレクションモード	拡張
コンソールリダイレクションポート	COM1
シリアルポートボーレート	9600
シリアルポートフロー制御	CTS/RTS (ハードウェア)
端末エミュレーション	VT100+
シリアル1マルチプレクサ	System

■ テキストコンソールのリダイレクション

リモートでテキストコンソールのリダイレクションを行う場合は、BIOS テキストコンソール画面で [コンソールリダイレクションの開始] をクリックした後、[Login] をクリックします。



表：テキストコンソールのリダイレクションで表示される項目の説明

項目	説明
BMC (FW:)	ログオン後、iRMC S2 ファームウェアのバージョンを表示します。
IP Address	iRMC S2 に設定された IP アドレスが表示されます。
[Login] ボタン	「IP Address」に表示されている iRMC S2 にログオンします。
[Logoff] ボタン	iRMC S2 からログオフします。
Power Management	サーバの電源制御を行います。サーバに対して行う操作を選択します。 [Status] をクリックすると、現在のサーバの電源状態が表示されます。
Command	サーバに対して行う電源制御操作のコマンドを選択します。
Power On	電源を入れます。
Power Off	電源を切ります。
Reset	再起動します。
Power Cycle	電源を切り、再度電源を入れます。
Shutdown	シャットダウンします。
Console Redirection	iRMC S2 にログオンしている場合のみ有効です。
[Enter Console] ボタン	コンソールリダイレクションを開始します。
[Leave Console] ボタン	コンソールリダイレクションを終了します。

POINT

- ▶ テキストコンソールのリダイレクションは、テキストベースのコンソールリダイレクションです。POST から OS (Windows/Linux) の起動開始まで (BIOS 設定含む) のリダイレクションが行えます。

4.11.2 ビデオリダイレクション (AVR)

リモートでコンソールのリダイレクションを行います。

重要

- ▶ ビデオリダイレクションの機能を使用するには、別途、ライセンスキーが必要になります。
ライセンスキーおよびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルを参照してください。
ライセンスキーの設定については、「4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定」(→ P.30)を参照してください。
- ▶ ユーザの権限に「AVR 使用権限」が設定されていない場合、ビデオリダイレクションは行えません。「4.10.1 ユーザ管理」(→ P.60)の「■ ユーザ情報の変更」(→ P.61)を確認してください。
- ▶ リモートマネジメントコントローラを接続するLANポートに対しスパニングツリーが設定されている場合、サーバの電源 OFF/ON のタイミングでビデオリダイレクション、リモートストレージが切断されることがあります。スパニングツリーを設定しないでください。
サーバ本体の LAN とリモートマネジメントコントローラの LAN が同じポートを使用している場合、サーバ本体の電源 OFF/ON を行うと、サーバ本体 LAN の初期化が行われ、それと同時にスパニングツリーが再構成されます。
スパニングツリーの再構成には 30 秒以上かかるため、その間リモートマネジメントコントローラの LAN も通信ができなくなりビデオリダイレクション、リモートストレージが切断されます。

ライセンスが承認されていると、以下の画面が表示されます。

表：ビデオリダイレクション (AVR) に表示される項目の説明

項目	説明
スクリーンショット	ウォッチドッグタイムアウトなどが発生した場合に、その時点のスクリーンショットが自動的に作成され、リモートマネジメントコントローラ内に保持されます。
[全画面表示]	保持されているスクリーンショットを別画面で表示します。スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。 → 「● スクリーンショットの全画面表示」(P.71)

表：ビデオリダイレクション（AVR）に表示される項目の説明

項目	説明
[プレビュー]	保持されているスクリーンショットを画面内にプレビュー表示します。スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。→「●スクリーンショットのプレビュー」(P.71)
[作成]	ボタンをクリックした時点のスクリーンショットを取得します。
[削除]	保持されているスクリーンショットを削除します。スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。
AVR 実行中セッション表	ビデオリダイレクション（AVR）に接続しているマシンの情報が表示されます。接続していない場合は表示されません。
番号	接続マシンの通し番号です。
IP アドレス	接続マシンの IP アドレスです。
ユーザ名	リモートサービスコントローラへのログインユーザ名です。
ユーザ ID	ログインユーザ名の ID 番号です。詳しくは、「4.10.1 ユーザ管理」(→ P.60) を参照してください。
アクセス権限	ビデオリダイレクション（AVR）の操作モードです。 ・表示のみ：参照モード ・フルコントロール：操作可能モード
ストレージ有効	リモートストレージ接続の状態です。
コントロール取得可能	ビデオリダイレクション（AVR）のコントロール可否です。 ・YES：コントロール権があります。 ・NO：コントロール権がありません。
セッション状況	ビデオリダイレクション（AVR）の接続状態です。
ビデオリダイレクション	
[ビデオリダイレクションの開始]	ビデオリダイレクション（AVR）を開始します。→「●ビデオリダイレクション」(P.72)
サーバ側のモニタ	サーバのモニタ出力を制御します。モニタ出力制御不可の場合、この項目は表示されません。
サーバ側モニタの出力を切替可能にする	サーバのモニタ出力を OFF にする場合、チェックします。この項目を有効にすると [常に出力 ON] が [出力 OFF] / [出力 ON] に変わります。 [出力 OFF]：サーバのモニタ出力を OFF にします。 [出力 ON]：サーバのモニタ出力を ON にします。
AVR 開始時に自動的にサーバ側モニタ出力を OFF にする	ビデオリダイレクション（AVR）接続時に自動的にサーバのモニタ出力を OFF にします。

POINT

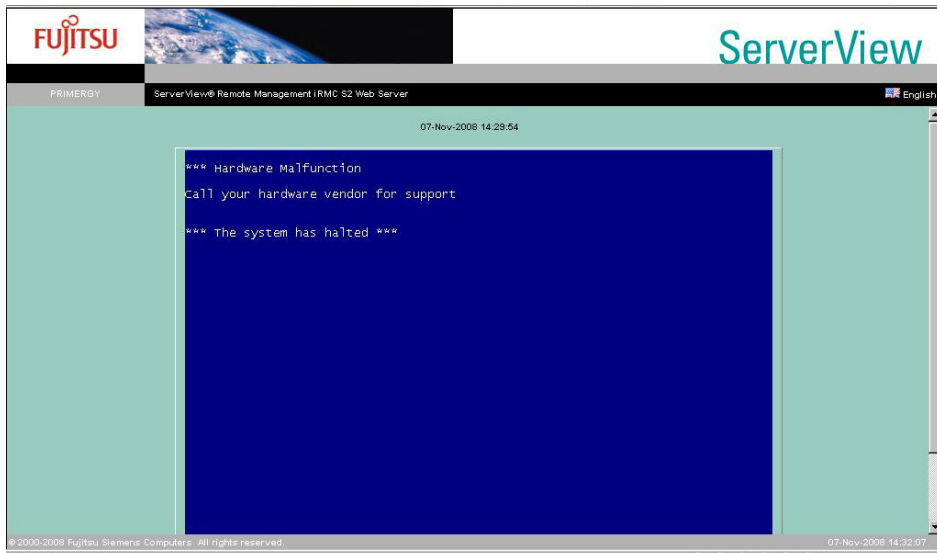
- ▶ 「サーバ側モニタの出力を切替可能にする」を有効にした場合、ビデオリダイレクション画面の「拡張機能」メニューからもサーバのモニタ出力を ON / OFF できます。

重要

- ▶ サーバ側のモニタが OFF の状態（「サーバ側モニタの出力を切替可能にする」が有効）の場合、サーバ前面のシステム識別灯は点滅状態となります。この状態では、「システム識別灯」ボタンを操作しても点滅状態は変わりません。

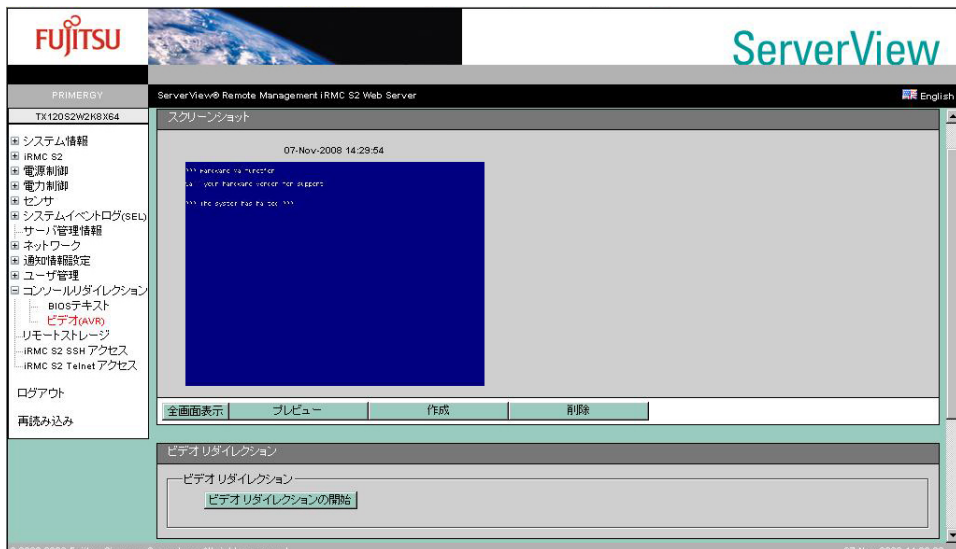
● スクリーンショットの全画面表示

スクリーンショットが保持されている状態で [全画面表示] をクリックすると、別画面にスクリーンショットが表示されます。終了するにはブラウザを閉じてください。



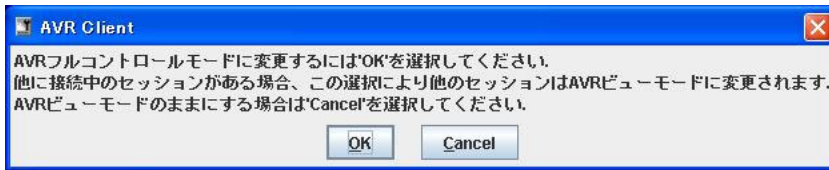
● スクリーンショットのプレビュー

スクリーンショットが保持されている状態で [プレビュー] をクリックすると、同じ画面内にスクリーンショットがプレビュー表示されます。プレビュー表示は 10 秒で自動的に閉じられます。



● ビデオリダイレクション

[ビデオリダイレクションの開始] をクリックするとビデオリダイレクション画面が起動します。また、起動時に以下の画面が表示されます。



マウス、キーボードなどを使用する場合は、[OK] をクリックしてください。フルコントロールモードになります。[Cancel] をクリックするとビューモードになり、マウス、キーボードなどは使用できません。表示のみになります。

POINT

- ▶ ビデオリダイレクションでは Java を使用しているため、以下の画面が起動されますが、ビデオリダイレクションを終了しても自動で同時終了されません。手動で終了してください。

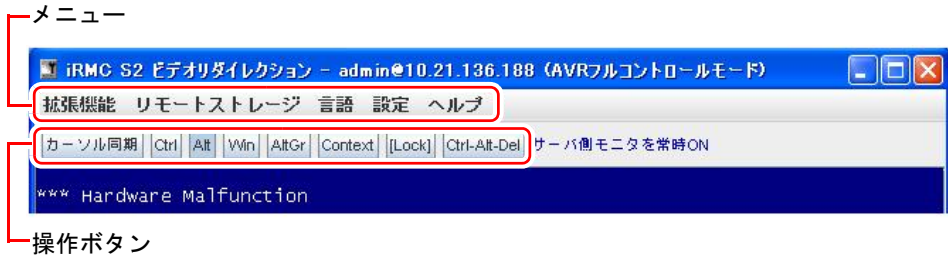


重要

- ▶ ビデオリダイレクションでは以下の表示をサポートしていません。
 - ・ 1280 × 1024 以上の解像度での 24Bit/32Bit Color モード
 - ・ 1600 × 1200 を超えた解像度
 - ・ 標準以外の VGA ドライバの使用
- ▶ リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースを終了せずに繰り返しビデオリダイレクションを起動した場合、Java エラーとなったり、ビデオリダイレクションが無応答となったりする場合があります。その場合には、ブラウザをすべて終了させ、再度リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースを起動してください。
- ▶ ビデオリダイレクションでマウス、キーボード操作を有効にした場合、サーバ側では USB 接続のマウス、キーボードとして認識されます。サーバの設定で USB 接続が無効 (USB ドライバがないなど) の場合は、マウス、キーボードのビデオリダイレクションでの操作はできません。

4.11.3 ビデオリダイレクションの画面構成

ビデオリダイレクションが起動すると、以下の画面が表示されます。
画面上部にメニューがあり、その下に操作ボタンが配置されています。



■ ビデオリダイレクションのメニュー

表：ビデオリダイレクションのメニュー

項目	説明
拡張機能	
グラフィカルキーボード表示	グラフィカルキーボードを表示します。 → 「4.11.6 グラフィカルキーボード」 (P.80)
サーバ側モニタ表示状態取得	サーバのモニタ出力状態を再取得します。現在のモニタ出力状態は、ビデオリダイレクション画面の操作ボタンの右側に青字で表示されます。
サーバ側モニタ表示 ON	サーバのモニタ出力を ON にします。
サーバ側モニタ表示 OFF	サーバのモニタ出力を OFF にします。
画面の再読み込み	リダイレクション画面の再読み込みを行います。
AVR フルコントロールモード	フルコントロールへ変更します。ビューモード時のみ有効です。
AVR 接続の切断	ビデオリダイレクションでの接続を切断します。未サポートです。
AVR ビューモード	ビューモードへ変更します。フルコントロールモード時のみ有効です。
終了	ビデオリダイレクションを終了します。
リモートストレージ	リモートストレージの接続設定を行います。 → 「4.11.5 リモートストレージ接続」 (P.76)
言語	言語が選択できます。
設定	マウス、キーボード、ログに関する設定を行います。 → 「4.11.7 マウス、キーボードの設定」 (P.80)
ヘルプ	セッション状態、およびビデオリダイレクションのバージョンを表示します。

重要

- ▶ 「拡張機能」メニューの「サーバ側モニタ表示状態取得」、「サーバ側モニタ表示 ON」、「サーバ側モニタ表示 OFF」の3項目はモニタ出力制御ができない機種では表示されません。

■ ビデオリダイレクションの操作ボタン

表：ビデオリダイレクションの操作ボタン

ボタン	説明
[カーソル同期]	サーバ側のマウスカーソル位置をシンクロ動作させます。
[Ctrl]	【Ctrl】キーに相当します。
[Alt]	【Alt】キーに相当します。
[Win]	【Windows】キーに相当します。
[AltGr]	ヨーロッパ仕様キー配列の【AltGr】キーに相当します。未サポートです。
[Context]	マウスの右クリックメニューを表示します。
[Lock]	【Ctrl】 / 【Alt】 / 【Windows】キーを押したままの状態になります。 自動解除されませんので、解除するには再度 [Lock] をクリックしてください。
[Ctrl-Alt-Del]	【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】キーの同時押しに相当します。

POINT

- ▶ Windows にログオンする場合は、[Ctrl-Alt-Del] をクリックしてください。

重要

- ▶ リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースを終了せずに、URL を変更して別のリモートマネジメントコントローラに接続した場合、ビデオリダイレクションの「リモートストレージ」メニューは表示されません。別のリモートマネジメントコントローラに接続する際は、いったん、ブラウザを終了させてください。リモートストレージが使用できない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定

[カーソル同期] をクリックすると、マウスカーソルをシンクロさせることができます。マウスカーソルがシンクロしない場合、ビデオリダイレクション対象のサーバで以下の設定を行い、その後 [カーソル同期] をクリックしてマウスのシンクロ操作を行ってください。

■ Windows (Server Core 以外) の場合

● 画面の設定

- 1 コントロールパネルを起動し、「画面」を選択します。
- 2 [設定] タブの [詳細] をクリックします。
- 3 [トラブルシューティング] タブの「ハードウェア アクセラレータ」を「最大」から左に1メモリ移動し、[OK] をクリックします。

● マウスの設定

- 1 コントロールパネルを起動し、「マウス」を選択します。
- 2 マウスの動作設定を行います。
[ポインタオプション] タブの「精度を高める」にチェックが入っている場合はチェックを外します。
- 3 ビデオリダイレクションの [カーソル同期] をクリックし、マウスカーソルを同期させます。
マウスカーソルがずれる場合、「速度」項目のスライダーを調整してください。

■ Windows (Server Core) の場合

- 1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3 PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下の設定ツールを実行します。
[CD/DVD ドライブ]
:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥Common¥Tools¥iRMC_Core¥MouseSync.bat

■ Linux の場合

- 1 次のコマンドを実行します。

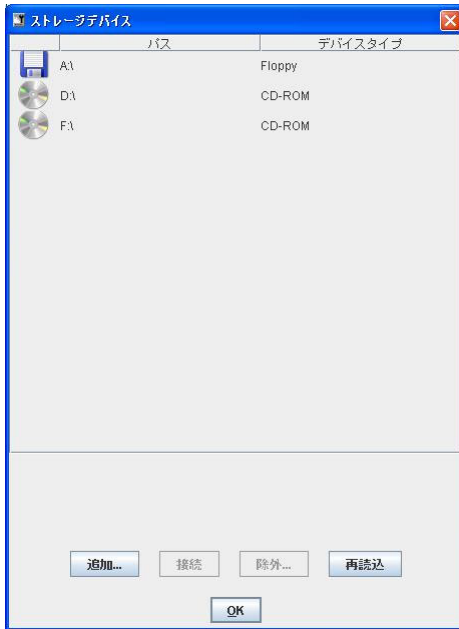
```
>xset m 0 0
```

重要

- ▶ マウスのシンクロ動作設定は、サーバサポート OS 以外はサポートしていません。
また、マウスの動作を制御するソフトウェアが起動している場合、マウスカーソルのシンクロ動作が行えない場合があります。

4.11.5 リモートストレージ接続

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」(→ P.73) から「リモートストレージ」を選択すると、リモートストレージ接続を実行することができます。リモートストレージ接続とは、Web インターフェースを起動しているマシンの外部記憶装置を、ビデオリダイレクションの対象サーバのリモート接続装置として接続させる機能です。接続したい装置を選択し [接続] をクリックすると、ビデオリダイレクションの対象サーバに接続されます。



重要

- ▶ リモートストレージ接続の機能を使用するには、別途ライセンスキーが必要になります。ライセンスキー、およびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルを参照してください。
- ▶ リモートストレージ接続の機能で利用できる機器は、次のとおりです。ただし、DVD ドライブにおける書き込み機能は未サポートです。
 - ・ 内蔵フロッピーディスクドライブ
 - ・ ATAPI CD-ROM ドライブ
 - ・ ATAPI DVD ドライブ
 - ・ USB フロッピーディスクドライブ
 - ・ USB CD-ROM ドライブ
- ▶ リモートストレージ接続は、ビデオリダイレクション終了時に自動的に解除されます。
- ▶ リモートストレージで接続された機器は、サーバ側では USB 接続機器として認識されますので、USB が使用できない環境 (USB ドライバがないなど) では使用できません。
- ▶ リモートストレージ接続で、一度に接続できる機器は 2 台までです。

POINT

- ▶ 装置の接続を解除したい場合は、[切断] をクリックします。
- ▶ リモートストレージの一覧に表示されていない装置がある場合は、[再読込] をクリックしてください。装置の再検索を行います。
- ▶ 画面に表示されない装置 (ImageFile など) を追加する場合は、[追加] をクリックして表示される「ストレージデバイスの追加」画面で「ストレージタイプ」を選択してから指定してください。
- ▶ フロッピーディスクや CD-ROM などは、媒体がセットされていないと一覧には表示されません。
- ▶ リモートデバイスの追加接続や個別解除はできません。
- ▶ BIOS が USB Legacy をサポートしている場合には、リモートストレージで接続した媒体から起動できます。BIOS セットアップユーティリティで「Multiboot」および「USB Legacy Support」を [Enabled] に設定し、リモートストレージ接続した媒体を BOOT 順番の一番上に設定してください。

● リモートストレージ接続で 2 台同時接続している際の USB 速度の切り替え方法

リモートストレージで 2 台同時に接続した場合、サーバ側では USB1.1 と USB2.0 で接続されます。

どちらの接続にどの USB を接続するか選択する画面が表示されます。



1 [交換] をクリックします。

2 台の装置の接続 (「USB 1.1」 と 「USB 2.0」) が切り替わります。

2 [OK] をクリックします。

■ Red Hat Linux でのリモートストレージ接続で一度に2台接続する方法

POINT

▶ 各コマンドの詳細は Linux コマンドのマニュアルを参照してください。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の機器に対してのリモートストレージ接続は、デフォルト設定では1台のみ有効ですが、以下の方法を行うことで一度に2台の機器への接続が可能です。

例) フロッピーディスクドライブ/CD-ROM ドライブの2台を同時接続する場合 (FPD:No0,CD-ROM:No.1)

1 クライアント側でリモート接続します。

1. 「■ ビデオリダイレクションのメニュー」(→P.73) から「リモートストレージ」をクリックします。
2. 表示された画面で、フロッピーディスクドライブ/CD-ROM ドライブを選択して [接続] をクリックします。

2 サーバの RedHat 画面 (ビデオリダイレクション) で以下のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

接続デバイス情報が表示されます。

3 リモートストレージで接続された1台目 (FPD) の設定のうち、Host 名、Channel、id、Lun の情報を控えておきます。

(例 : Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0)

4 以下のコマンドを実行します。

```
echo "scsi add-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D にはそれぞれ以下の内容を設定してください。

表 : 英字に設定する内容

記号	意味	説明
A	Host 名の scsi 番号	例えば Host 名が scsi3 なら A は 3 となります。接続するたびに変わります。
B	Channel 番号	リモートストレージ接続1台目と同じ Channel 番号を設定します。
C	id 番号	リモートストレージ接続1台目と同じ id 番号を設定します。
D	Lun 番号	「リモートストレージ接続1台目の Lun 番号」 + 1 の数字を設定します。

例 : Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0 の場合

```
echo "scsi add-single-device 3 0 0 1" >/proc/scsi/scsi
```

5 以下のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

追加設定で CDROM が設定されたことを確認します。

6 以下のコマンドを実行し、media フォルダに cdrom が追加されることを確認します。

```
ls /media
```

cdrom1 があれば問題ありません。

7 以下のコマンドを実行し、RemoteCDROM に入れることを確認します。

```
cd /media/cdrom1
```

8 以下のコマンドを実行し、設定を削除します。

設定を削除せずにリモートストレージ接続を終了すると、cdrom1 の設定が残ったままとなるため、次回の接続では cdrom2 となります。

```
echo "scsi remove-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D には、「表：英字に設定する内容」(→ P.78) の内容を設定してください。

9 以下のコマンドを実行し、設定が削除されたか確認します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

10 クライアントでリモートストレージの接続を解除します。

Web コンソールの画面で [切断] をクリックします。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) ではそのまま接続は可能ですが、自動で OS にマウントされません。

リモートストレージを使用する場合はマウントコマンドを使用してマウントしてください。

• フロッピーディスクの場合

```
mount /dev/hdb /media/floppy
```

• CD-ROM の場合

```
mount /dev/scd0 /media/cdrom
```

4.11.6 グラフィカルキーボード

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」(→P.73) から「拡張機能」→「グラフィカルキーボード表示…」の順に選択すると、ビデオリダイレクションの画面上にグラフィカルキーボードを表示できます。

画面上のキーボードをマウスでクリックすると、対応するキーが対象サーバに送信されます。



4.11.7 マウス、キーボードの設定

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」(→P.73) から「設定」→「設定」の順に選択すると、マウスの動作モード、キーボードのキー配列、ログの採取、画面の設定が行えます。設定を選択後、[OK] をクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。ユーザ名とパスワードを入力し、[はい] をクリックすると設定が反映されます。



重要

- ▶ サーバ側で Num Lock On の状態でビデオリダイレクションを行うと、クライアント側も Num Lock On となります。

■ マウスタブ

マウスの動作モードを設定します。

表：マウスの設定

項目	説明
マウス動作モード	
操作側を非表示 (Relative)	操作側のマウスカーソルを表示しません (モードは Relative Mode)。
Absolute モード	X 軸、Y 軸アドレス移動モードです。
Relative モード	相対アドレス移動モードです。

POINT

- ▶ 「操作側を非表示 (Relative)」を選択後、再びクライアント側のマウスカーソルを表示する場合はクライアント側のキーボードで【Ctrl】+【Alt】+【0】を同時に押してください。
【0】はテンキーではなく、ファンクションキーの下位置にある【0】キーを使用してください。

■ キーボードタブ

キーボードのキー配列、および接続タイプを設定します。

表：キーボードの設定

項目	説明
言語タイプ	キーボードのキー配列を設定します。日本語キーボードが選択可能です。

■ ログタブ

ビデオリダイレクションのログを作成します。

表：ログの作成方法

項目	説明
ログ採取先	ログの出力先を指定します。
ログしない	ログファイルを出力しません。
Java コンソール	Java コンソールにログを出力します。
ログファイル	指定ファイルにログを出力します。
Java コンソールとログファイル	Java コンソール、および指定ファイルにログを出力します。
ログファイル	出力するログファイルを指定します。

■ その他設定タブ

その他、ビデオリダイレクション (AVR) デバッグ項目を設定します。

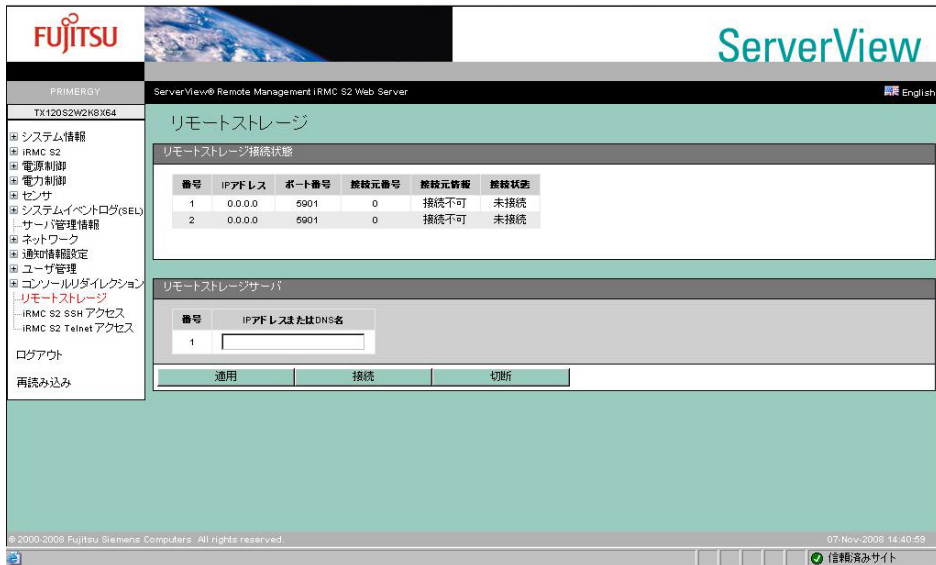
表：デバッグ項目の設定

項目	説明
DLL の上書き許可	DLL の上書きを許可します。未サポートです。
ハードウェア圧縮	ハードウェアによる圧縮を許可します。未サポートです。

4.12 リモートストレージ

リモートストレージの状態を参照します。

ビデオリダイレクションで設定したリモートデバイスの状態が表示されます。



表：リモートストレージに表示される項目の説明

項目	説明
リモートストレージ接続状態	
番号	リモートデバイスの通し番号です。
IP アドレス	デバイスが存在するサーバ/ PC の IP アドレスです。
ポート番号	リモートデバイスが接続（通信）に使用するポート番号です。
接続元番号	接続の際に割り当てられた番号です。
接続元情報	デバイスが存在するサーバ/ PC での状態です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 接続不可（未検索状態） ・ 接続可能（検索済み状態）
接続状態	現在の接続状態です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未接続状態 ・ 接続状態
リモートストレージサーバ	
未サポートです。	
番号	リモートストレージサーバの通し番号です。未サポートです。
IP アドレスまたは DNS 名	リモート接続するストレージサーバの IP アドレス、または DNS の登録名を指定します。未サポートです。
[適用]	リモートストレージサーバの設定を保存します。未サポートです。
[接続]	接続対象のイメージサーバを接続します。未サポートです。
[切断]	接続されているイメージサーバを接続解除します。未サポートです。

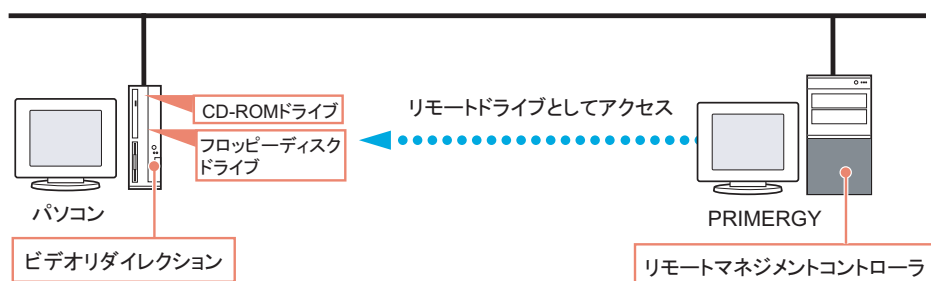
POINT

- ▶ この画面でリモートストレージ接続は行えません。接続はビデオリダイレクションから行ってください。
- ▶ [切断] をクリックするとリモートストレージ接続も解除されます。
- ▶ ユーザの権限に「リモートストレージ有効」が設定されていない場合、ビデオリダイレクションは行えません。「4.10.1 ユーザ管理」(→ P.60) の「■ ユーザ情報の変更」(→ P.61) を確認してください。

■ リモートストレージ接続とリモートストレージサーバの違いについて

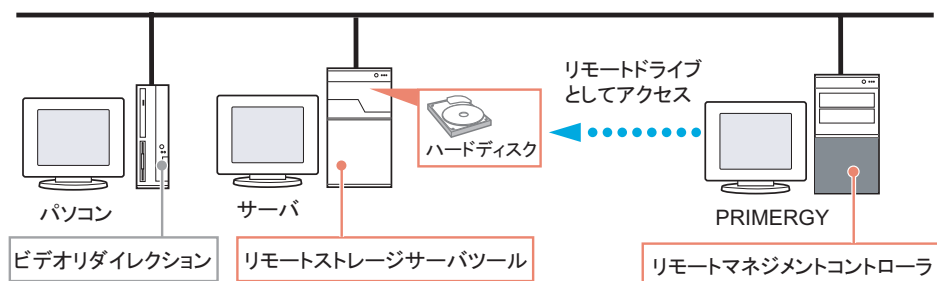
● リモートストレージ接続

ビデオリダイレクションを行っている PC またはサーバに接続中の周辺機器 (CD-ROM など) を、リモート管理コントローラが搭載された対象のサーバに遠隔接続します。ビデオリダイレクションについては、「4.11.2 ビデオリダイレクション (AVR)」(→ P.69) を参照してください。



● リモートストレージサーバ (未サポート)

リモートストレージサーバツールが動作しているサーバのハードディスクドライブを、対象のサーバに遠隔接続します。リモートストレージサーバツールは提供していません。本機能は未サポートです。



4.13 iRMC S2 SSH アクセス

リモートマネジメントコントローラへ SSH 接続を行います。

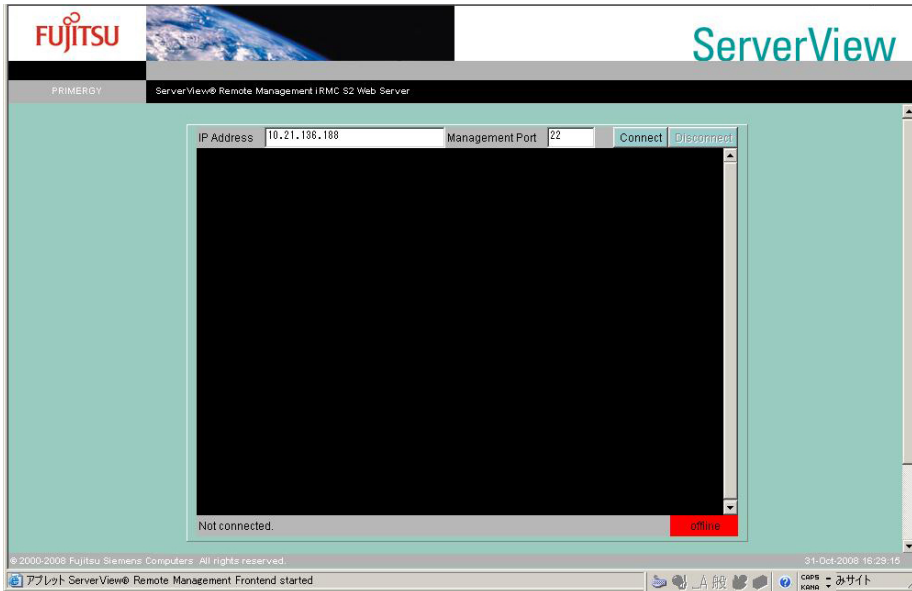


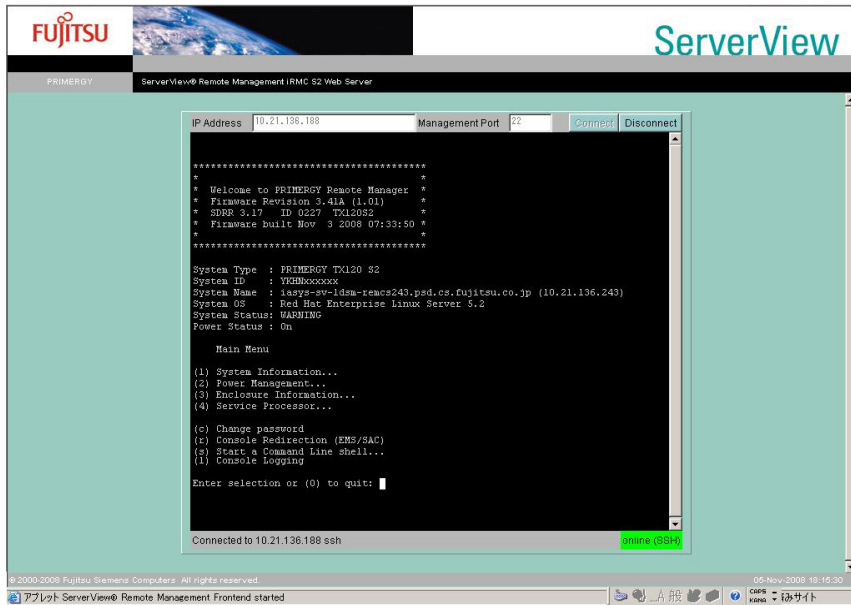
表 : iRMC S2 SSH アクセスに表示される項目の説明

項目	説明
IP Address	iRMC S2 に設定された IP Address が表示されます。
Management Port	iRMC S2 に設定された SSH Port が表示されます。
[Connect]	「IP Address」に表示されている iRMC S2 に接続します。
[Disconnect]	iRMC S2 から切断します。

4.13.1 接続方法と終了方法

● 接続方法

- 1 [Connect] をクリックします。
- 2 リモートマネジメントコントローラの接続 ID とパスワードを入力します。
リモートマネジメントコントローラへ接続されます。



● 終了方法

- 1 [Disconnect] をクリックします。
リモートマネジメントコントローラへの接続を終了します。
メインメニューから「quit」を選択せずに [Disconnect] をクリックした場合は、自動的に接続を終了します。
なお、接続を終了しても画面は閉じません。画面を閉じるには、「ファイル」メニューの「終了」を選択してください。

4.13.2 メインメニュー

リモートマネジメントコントローラのメインメニューです。

表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。

項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。利用できない機能には(*)が表示されます。

【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニューを表示しているときに【0】キーを押すと、接続が切断されます。

表：リモートマネジメントコントローラのメインメニュー

メニュー項目	説明
System Information	本機能は未サポートです。
Power Management	サーバの電源制御を行います。選択すると電源制御メニューが表示されます。
Enclosure Information	本機能は未サポートです。
Service Processor	本機能は未サポートです。
Change password	本機能は未サポートです。
Console Redirection (EMS/ASC)	コンソールをリダイレクトするときに使用します。
Start a Command Line shell..	本機能は未サポートです。
Console Logging	本機能は未サポートです。

■ PowerManagement

表：Power Management メニュー

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OSの状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OSの状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OSの状態に関係なく、サーバの電源を切断し、電源を再投入します。
Power On	サーバの電源を投入します。
Graceful Power Off (Shutdown)	サーバをシャットダウンします。リモートマネジメントコントローラがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Graceful Reset (Reboot)	サーバを再起動します。リモートマネジメントコントローラがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Raise NMI (via iRMC S2)	サーバに NMI 信号を送信します。NMI をサポートしていないサーバでは選択できません。

■ Console Redirection (EMS/ASC)

リモートマネジメントコントローラのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。

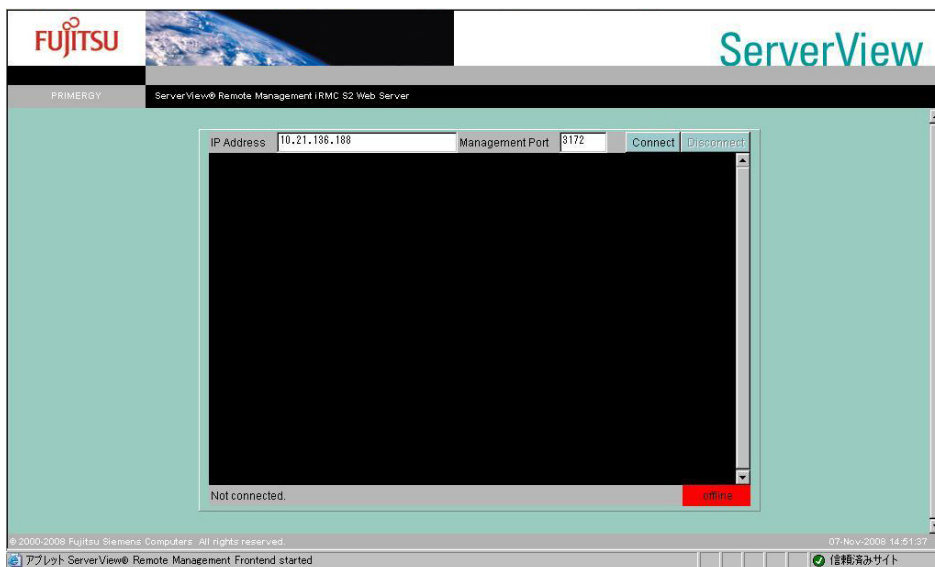
コンソールリダイレクションによって以下の操作が行えます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ

コンソールリダイレクションは、チルダ (~) とピリオド (.)、または "Esc" と "(" を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

4.14 iRMC S2 Telnet アクセス

リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行います。



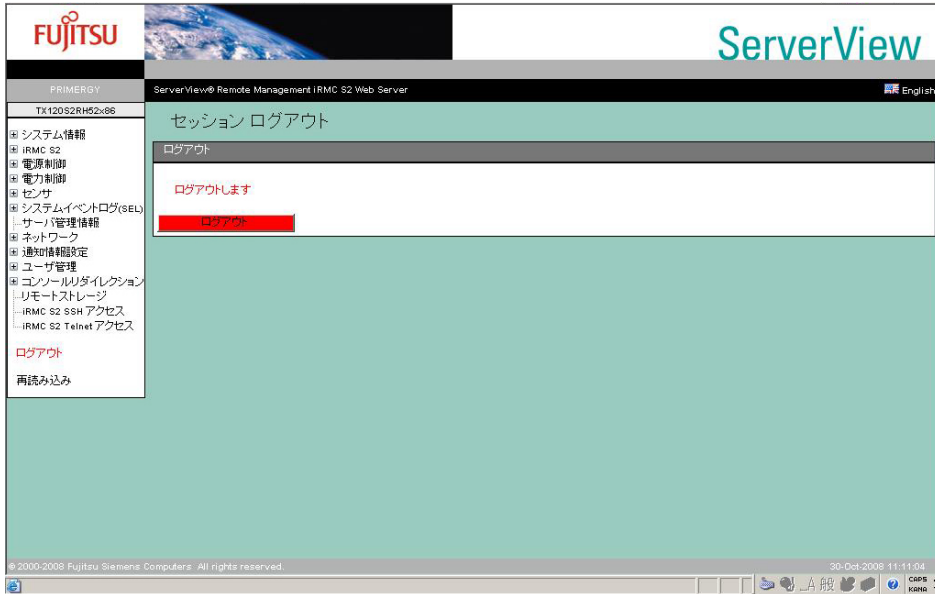
接続方法と終了方法、およびメインメニューは、「4.13 iRMC S2 SSH アクセス」(→ P.84)と同様です。それぞれ「4.13.1 接続方法と終了方法」(→ P.85) および「4.13.2 メインメニュー」(→ P.86) を参照してください。

POINT

- ▶ リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行う場合は、あらかじめネットワーク画面の「ポート」で Telnet を有効にする必要があります。「4.8 ネットワーク」(→ P.52) を参照してください。

4.15 セッションログアウト

リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースからログアウトします。



表：セッションログアウトに表示される項目の説明

ボタン	説明
[ログアウト]	[ログアウト] をクリックすると、一度ログアウトの確認が行われた後に、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースとのセッションを終了します。ログアウト後、[ログアウト] は [ログイン] に変わります。再度ログインする場合は、[ログイン] をクリックしてください。

POINT

- ▶ [ログアウト] によりログアウトしても、ブラウザは終了しません。

付録

この章では、リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用する際に必要な設定について説明しています。

A LDAP を使用する場合の設定	90
-------------------------	----

A LDAP を使用する場合の設定

リモートマネジメントコントローラでは LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) を利用したディレクトリ・サービスを利用できます。

その際、ディレクトリ・サービス (Directory Service) にリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要となります。

■ ディレクトリ・サービスを利用する際に必要な設定

ディレクトリ・サービスを利用するには以下の設定が必要です。

- ・ドメイン配下に Organizational Unit 「iRMCgroups」が必要です。
- ・「iRMCgroups」配下に Organizational Unit 「Departments」、「Shell」が必要です。
- ・「Departments」配下に管理名 (任意名) の Organizational Unit が必要です。
- ・管理名の配下にリモートマネジメントコントローラアクセスの権限を設定するためのセキュリティグループが必要です。

リモートマネジメントコントローラへ LDAP を利用してログインするためには、ユーザ (ID) がこのセキュリティグループに属している必要があります。

重要

- ▶ 設定にはディレクトリ・サービスの知識が必要となります。十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。

■ ディレクトリ・サービスの設定 (Active Directory の場合)

Windows 標準のディレクトリ・サービスである「Active Directory」を例に、設定手順を説明します。

リモートマネジメントコントローラがディレクトリ・サービスにアクセスし、利用するために、Active Directory (ディレクトリ・サービス) へ以下の設定を行います。

POINT

- ▶ リモートマネジメントコントローラにアクセスする「ユーザ (ID)」／「パスワード」は事前に Active Directory で作成しておく必要があります。

1 Active Directory のドメイン配下に Organizational Unit (以降 OU と記載します) として「iRMCgroups」(名前固定) を作成します。

1. Active Directory が設定されているサーバで「Active Directory ユーザーとコンピュータ」設定を起動します。
2. ドメイン名の配下に「iRMCgroups」という OU を作成します。

POINT

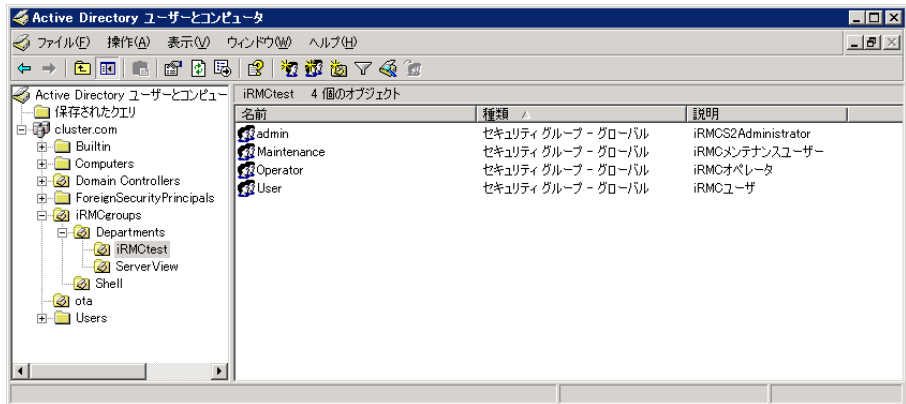
- ▶ Active Directory のドメイン名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「ディレクトリ サービス構成」の「ドメイン名」に設定します。
→「4.10.2 ディレクトリサービス構成」(P.65)

- 2** 手順 1 で作成した OU 「iRMCgroups」の配下に、さらに「Departments」「Shell」（両方とも名前固定）という OU を作成します。
OU 「Shell」は使用しません。
- 3** 手順 2 で作成した OU 「Departments」の配下に、さらに OU を作成します。
ここで作成する OU の名前は、任意です。
OU 「Departments」の配下には、複数の OU を作成することができます。

POINT

- ▶ ここで設定した OU 名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「ディレクトリ サービス構成」の「Dept. name」に設定します。
→「4.10.2 ディレクトリサービス構成」(P.65)
「ディレクトリ サービス構成」の「Dept. name」に設定できる OU 名は 1 つのみです。

- 4** 手順 3 で作成した OU（任意の名前）の配下に「セキュリティグループ - グローバル」を新規作成します。



上の図では「admin」「Maintenance」「Operator」「User」の 4 つのセキュリティグループを作成しています。グループ名、グループ数は任意です。

- 5** 作成したセキュリティグループのプロパティを表示し、「メモ」に各権限を設定したテキストを入力します。

表：「メモ」に設定する内容

項目	設定値
LAN	OEM / Administrator / Operator / User
Serial	OEM / Administrator / Operator / User
UserAccounts	On / Off
iRMCsettings	On / Off
VideoRedirection	On / Off
RemoteStorage	On / Off

POINT

- ▶ 各権限の内容については「■ ユーザ情報の新規作成」(→ P.64)を参照してください。

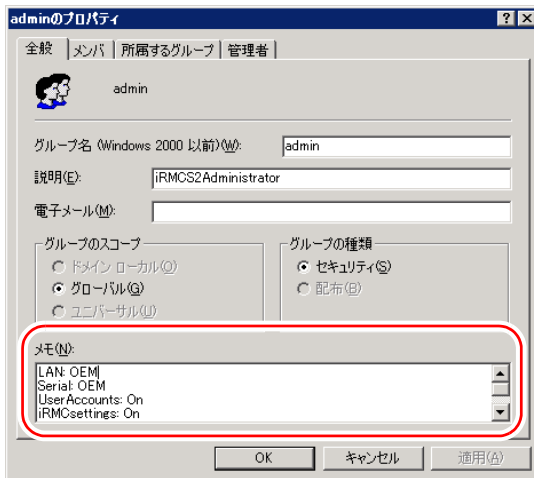
入力例

```

LAN: OEM
Serial: OEM
UserAccounts: On
iRMCsettings: On
VideoRedirection: On
RemoteStorage: On

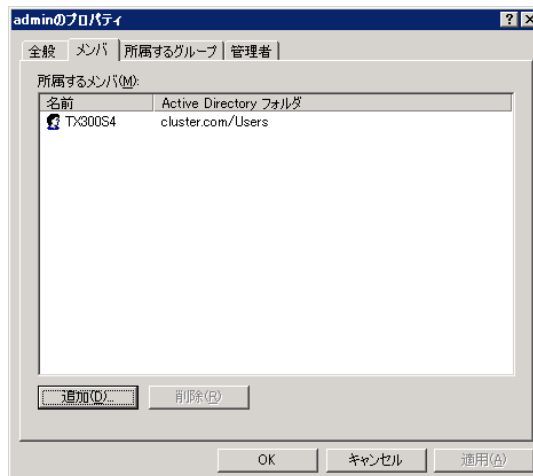
```

ここで設定した権限がリモートマネジメントコントローラでの権限となります。



6 リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）をセキュリティグループに登録します。

1. ユーザを登録するセキュリティグループのプロパティを表示し、[メンバ] タブをクリックします。



2. [追加] をクリックして、リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）を設定します。

- 7** Active Directory の設定終了後、リモートマネジメントコントローラの「ディレクトリ サービス構成」の各項目を設定します。
→ 「4.10.2 ディレクトリサービス構成」(P.65)
次回のログインより Active Directory が使用可能となります。

索引

く		システム情報	26
グラフィカルキーボード	80	システムの概要	26
つ		終了	23
通信プロトコル	16	消費電力制御	38
て		セッションログアウト	88
ディレクトリ・サービス	90	センサ	40
ま		センサの状態	46
マウスカーソルのシンクロ動作設定	74	通知情報設定	57
り		ディレクトリ サービス構成	65
リモートマネジメントコントローラ	10	電圧	45
ユーザ名とパスワードの設定	14	電源制御	35
留意事項	11	電源制御オプション	37
IP アドレスの設定	14	電力制御	38
Web インターフェースの機能	10	認証データアップロード	32
L		ネットワーク	52
LDAP	90	ネットワーク インタフェース	52
O		ビデオリダイレクション (AVR)	69
Organizational Unit	90	ファン	40
V		メニュー一覧	21
Video Redirection		ユーザ管理	60
画面構成	73	ライセンスキー設定	30
グラフィカルキーボード	80	リモートストレージ	82
操作ボタン	74	BIOS テキストコンソール	67
マウスとキーボードの設定	80	DHCP 構成	55
メニュー	73	DNS 構成	56
リモートストレージ接続	76	E-mail 設定	58
W		iRMC S2	29
Web インターフェース		iRMC S2 SSH アクセス	84
温度	43	iRMC S2 Telnet アクセス	87
起動	18	iRMC S2 情報	29
コンソールリダイレクション	67	iRMC S2 ファームウェア設定の保存	31
サーバ管理情報	50	Power On/Off	35
自己署名 RSA 証明書の作成	33	SNMP トラップ送信設定	57
システムイベントログ	47		
システムイベントログ設定	49		
システムイベントログ内容	47		
システム構成情報	27		

リモートマネジメントコントローラ
ユーザーズガイド

B7FH-5931-01 Z0-00

発行日 2008年12月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。